

笑顔! ボランティアとともに
倉吉市
災害ボランティアセンター
活動報告書

～平成28年鳥取県中部地震における活動～

目 次

あいさつ

社会福祉法人 倉吉市社会福祉協議会 会長	坂本 操	1
日野ボランティア・ネットワーク	森本 智喜	2
コミサボひろしま	増田 勇希	3
上灘地区民生児童委員協議会 前会長	井上 靖	4
社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 総務部副部長	川瀬 亮彦	5

活動経過

1. 被災以前	8
2. 発災からボランティアセンター立ち上げ決定まで	9
3. 初期(上灘公民館 10月22日～11月13日)	10
4. 中期(まちかどステーション 11月15日～12月25日)	13
5. 後期(倉吉福祉センター 1月6日～3月31日)	16
6. センター閉所後と現在、総括	18

経験と提案

1. 本部・総務班	20
2. 受付班	23
3. ニーズ班	23
4. マッチング班	24
5. 資材班	27

参考資料・活動写真

1. 運営状況総括データ	
2. 設置規程	
3. マニュアル上の組織図	
4. 事業決算書	
5. 災害支援金受付状況・活動物品提供一覧・資機材一覧	
6. 実際に使用した様式	
7. 活動中に使用したチラシ・オリエンテーション資料	
8. 広報紙「しあわせ」記事	
9. 活動写真	



平成28年鳥取県中部地震 災害ボランティアセンター活動報告書発刊にあたって

社会福祉法人 倉吉市社会福祉協議会
会長 坂本 操

2016（平成28）年10月21日午後2時07分に発生した「鳥取県中部地震」。震源は鳥取県中部に位置する、三朝町から倉吉市にまたがる活断層が動き、マグニチュード6.6最大震度6弱の地震が発生しました。本震の前には、震度1、震度2クラスの地震が頻繁に発生し、本震当日にもお昼過ぎに震度4を記録するなどしました。その数時間後、緊急地震速報が流れたとたんに本震が襲い、倉吉市制が始まって以来の大災害となりました。

倉吉市では、以前にも震源がほぼ同じとする「中部地震」が1983（昭和58）年10月31日午前1時51分にマグニチュード6.2の地震に遭遇し、現倉吉市役所東庁舎の北側に面する鉄筋コンクリート柱の数が剪断破壊被害を受けた経緯があります。平成12年に発生した「鳥取県西部地震」で倉吉市でも震度3はありました。今回の「鳥取県中部地震」は地震規模で前回の数倍といわれ、これまで経験したことがない大災害でした。特に、東西の横ずれ断層型でしょうか、山陰特有の瓦屋根の棟付近が破壊し平瓦がずれ落ちるといった被害が市内各地で顕著にみられましたが、幸いにも死者も出ず、発生した時間帯がお昼時間から外れていたことから火災発生もなく、インフラ設備も数時間後には復旧するといったことから市民生活に一つの安堵感が生まれたと思います。

一方、山陰の気候であります冬の雪を迎えることから、ずれた瓦の落下被害や雨雪による室内への雨漏り等が二次被害を生むのではないかとといった心配がありました。地震発生後の天候は概ね晴れ続きであり、このことも市民の不安解消の一つになったと感じました。

災害対策本部となるべき市庁舎も震災に遭い、災害対策本部としての機能が失われ、県中部総合事務所での対策本部立ち上げとなり、倉吉市社会福祉協議会では、上灘公民館を拠点として災害ボランティアセンターを立ち上げました。関係機関・団体の応援を受け、全国、津々浦々から総勢4,549人におよぶボランティアが集まってくれ、壊れた屋根瓦の撤去始末をはじめ家屋の材料などの片付け搬出、屋根や外壁のブルーシート張り等の活動をしていただきました。冬場を控えての市民生活に大きなトラブルが発生しなかったことは、ボランティア活動の成果に尽きると強く感じたところであります。

これらの経験を次の世代はもとより、後世にまでしっかりと語り継ぐとともに、市民や県内外社協、学生、建設業者、各分野の方々の並々ならぬ、ご協力により福興“倉吉”になりましたことに厚くお礼申し上げます。なお、報告書発刊にあたり関係者のご尽力に敬意を表します。



全国で多発する災害と鳥取県中部地震

日野ボランティア・ネットワーク
森本智喜

2000年に発生した鳥取県西部地震当時は鳥取県社協に在職し、全国的にもまだ萌芽期にあった災害ボランティアセンターの開設と運営にあたりました。それから16年間、各地の大規模災害被災地で災害ボランティアセンターの運営支援にあたる経験を重ねて地元での災害発生となりました。そのような時はすぐに倉吉市社協へ駆けつけるものと考えてはいましたが、実際に遭遇してみると「本当に来てしまったか」という戸惑いと動揺がありました。

災害ボランティアセンターの開設運営にあたっては多くの仲間が市内外から駆けつけ、またそこで新たな仲間が生まれました。災害ボランティアセンターではボランティアの危険回避を理由に長らく行われることのなかった被災家屋の屋根活動が支援メニューとして取り組まれるなど大きな意義のあった運営がされたと感じています。「社協は災害時も市民の困りごとへ対応していく」「一見して対応が困難な困りごとへはその経験やノウハウを持つ人たちと共に対応していく」、当時その姿に市民は大いに勇気づけられました。

鳥取県中部地震による直接の死者はなくライフラインの復旧も比較的早かったものの、市民の暮らしにはその後も長く影響を残しています。実際にはこの程度の規模の災害の発生の可能性は低くはなく、その意味でも社協としての対応モデルのひとつとなりうる事例だったのではないかと感じています。





外部支援者として ～広島から当時はふり返り～

コミサポひろしま

増田 勇希

10月21日14時7分。広島にいた私は、遅い昼食をとり、外へ出た時に揺れを感じ、すぐにオフィスに戻り震源地を確認しました。

そこから同僚の小玉と連絡を取り、「2014年広島土砂災害では鳥取からたくさんの応援をいただいたから、まずは向かいましょう」となり、その夜、熊本の被災地から駆けつけた小玉と合流し倉吉に向かいました。

その後約半月、倉吉市災害ボランティアセンターの皆さんにお世話になり、現地調査やニーズ整理、破損した屋根の応急処理のマッチング等お手伝いをさせていただきました。

初めて訪ねる倉吉市で何が出来るか、地域に迷惑にならないか、最初はそんなことを悩みましたが、倉吉の温かいスタッフ、ボランティア、被災者の皆さんの笑顔に助けられ、微力ながら活動ができたと思います。

あれから3年、地域では活動が継続していると聞きます。それぞれが健やかな生活を営めるよう、そして、その経験が風化せず次の世代に繋がっていくよう、広島から応援しています。





災害ボランティア活動に参加して

上灘地区民生児童委員協議会
前会長 井上 靖

地震発生時は、全国民生委員児童委員大会で香川県におり、岡山自動車道が通行止めになったため、迂回して、午後8時30分頃に帰宅しました。すぐに円谷町内の一時避難所の円谷町防災センター（円谷公民館）へ直行してみると、26名の住民が避難していました。

翌日には、上灘公民館を拠点として災害ボランティアセンターが設置されたことで、当時、民生児童委員で上灘地区社会福祉協議会事務局長をしていた故・中瀬元一さんから、上灘地区民生児童委員として協力しようと提案があり、10月24日から11月14日までの3週間、4名がボランティア活動に参加しました。

活動内容としては、資材や瓦礫等の運搬、センター出入口の車の誘導等を中心に行いました。全国各地から駆けつけた多くのボランティアの方々に、センター出入口で一人ひとりに感謝の気持ちを込めて「ありがとうございます！」のお礼の言葉をかけました。交通費や宿泊代等すべて手弁当のボランティアの方にもう少し何かできなかつたらどうか、パンや牛乳、コンビニのお弁当では力が出ないので、せめて温かい味噌汁でも提供できたら良かったなど今でも思います。

また、民生児童委員として住民の支援に関わる中で、上灘地区は、自治公民館加入率が低く（当時63.9%）、情報が乏しいことによる負担もありました。

今日、社会のあり様が変わり、地域において人と人との繋がりが希薄化していることをこの災害をとおして実感しました。

今後は、地域行事やふれあい・いきいきサロン等の地域活動をとおして、地域の中で絆を深め、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉のまち」の実現をめざしていきたいと思っております。





復興へつなげるチーム力

社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会
総務部 副部長 川瀬 亮彦

発災直後、本会職員は被害の大きかった倉吉市社協へ出向きました。私は倉吉市社協へ向かうこととなり国道9号線を通りましたが、地震の影響による道路の隆起を目の当たりにし被害の大きさに驚愕。倉吉市社協2階の会議室も天井や壁が剥がれ落ち余震も続く過酷な状況でしたが、職員さんは避難住民への対応を優先されていました。

そのような状況下、深夜に倉吉市災害対策本部と協議し、発災翌日には災害ボランティアセンターを立ち上げることが決定。市の協力により上灘公民館をベースとすることが決まり、電話や資機材、事務用品などを早期に取り揃え、ボランティア活動調整の準備を急ピッチで進められました。

電話が開通すると鳴り止まない電話対応から活動は始まりました。関係団体のほか県内外の社協からも多くの災害ボランティアセンター運営支援があり、ネットワーク連携を発揮し一体となった復興活動が本格化したのです。

ボランティアの中にはリピーターの方が多くいらっしゃいましたが、災害ボランティアセンター運営側の雰囲気の良いからでしょう。

対応の丁寧さが人を呼び、集まった人の力が復興の加速に繋がるのだと実感しました。



発災からボランティアセンター閉所までのタイムライン

10/21

14:07
発災

本所

サービス利用者の安全確認
職員屋外避難(けが人なし)
※会長、事務局長、担当課長
は市内出張中
(15:00帰着)

15:30

避難者受入れ
近隣住民と協力し避難所設営
(テント張り
資材運び出し(机、イス)
トイレの井戸水利用)

17:00
17:30

ミーティング
・職員体制
・今後の方針

19:00

避難所への
アルファ化米
の炊出
市役所から
食糧・避難物資
の受入れ

23:00

災害対策本部の
要請

災害VC立ち上げ協議
・市社協
・県社協
・日野ボランティア
ネットワーク

10/22(土)

災害VC立ち上げの要請
会場:上灘公民館

支所

デイサービス利用者の安全
確保(けが人なし)
※支所長は市内出張中
(15:00帰着)

避難者受入れ準備(寝具・座布団・お茶)
サービス利用者の安全確認
サービス利用調整

福祉バスで
送迎
避難所受入

非常食
寝具を
提供

10/22

7:00

スタッフ
ミーティング

8:00

災害VC
設営・準備
通常業務の調整

14:00

上灘公民館
(8:30~17:00)
※11/14移転日

10/23 10/24

10/29-30

ボランティア
受付数最大

11/15
12/25

まちかどステーション
(9:00~16:00)
※12月から火曜日休所
※12/26移転日

1/6
3/31

福祉センター
(9:00~16:00)
※金・土・日が活動日
※屋根は随時受付

災害VC
開設

相談受付 ボランティア
受付開始

戸別訪問
開始

年末年始は休所

※移転日や休所日も相談には対応

倉吉市
災害ボランティアセンター
活動報告書

活動経過

1. 被災以前

鳥取県中部の中核都市である倉吉市は岡山県真庭市と県境を接する関金町との合併を経て人口約4万6千人、高齢化率33.5%（令和2年2月末現在）の緩やかに高齢化と過疎化が進むまちである。中心市街地の成徳・明倫地区は町屋造りの街並みが美しく、農村部であるその周辺地区も含めて瓦屋根の家屋が広く分布する風景となっている。昭和30年代頃までは市街地が冠水するような水害にたびたび見舞われてきたものの、県中部で大きな揺れを記録した地震については、1983年と2000年に震度3を記録した以外目立ったものはなく、治水工事の成果もあって大規模自然災害の脅威を身近に感じる事のない穏やかな市民生活が続いていた。鳥取県中部地震発生のおよそ1年前から隣町を震源域とする震度2程度の地震がたびたび発生し、当日正午過ぎには震度4の揺れに襲われる等やや不穏な空気はあったものの、特に市民生活に大きな影響はなく過ぎていた。

倉吉市社協（以下「市社協」）は明倫地区に本所、関金地区に支所を構え、被災当時77人の職員を擁していた。地域福祉事業を進める中で、約10年前から市民を対象として災害ボランティア養成講座を年に一度実施しており、受講した後に活動の意欲を示した登録ボランティアは約10人を数えていた。また、鳥取県中部地震が発生した10月に鳥取県社協（以下「県社協」）との共催で災害ボランティアセンター運営模擬訓練の実施を予定していた。職員の数名は他の被災地で災害ボランティアセンター運営支援活動の経験を有していたものの、市社協自体は自前でセンターを開設運営した経験はなかった。



2. 発災からボランティアセンター立ち上げ決定まで

平成28年10月21日（金）は正午過ぎに震度4の比較的強い地震が発生し、やや強い不安を覚えたところであった。続いて14時7分にマグニチュード6.6、最大震度6弱の強い地震に見舞われた。「下から突き上げるような揺れ」「激しい横揺れ」など人によって証言内容が異なるものの、いずれにしても築2年の新しい庁舎の特に2階天井部分が大きく損傷するなどして職員の動揺は大きかった。平日の昼間ということもあって会長・事務局長をはじめとして市内出張中の役職員もいたが、本所事務所では総務課長を中心として職員の安全確保と対応にあたり、間断なく発生する強い余震に見舞われながらも幸い負傷者はいなかったことが確認された。ほどなくして近隣住民が避難をしてきたことから応急的に避難所開設準備に取りかかり、夕暮れまで主に避難者対応と情報収集にあたることとなった。そうする間に日野ボランティア・ネットワーク、県社協から応援が駆けつけ、当夜と翌朝の態勢等について協議した。

夜半前の記者会見での県知事の「倉吉市を含む1市3町で明日（翌22日）災害ボランティアセンターを開設する」との発言の後に、市からの要請を受けたこともあって市社協として災害ボランティアセンター（以下「センター」）開設を決定、市災害対策本部との間でセンターの開設に向けた具体的協議を行った。センター活動マニュアルでは市社協の庁舎に設置としていたが、災害の状況やセンター運営の利便性等を考慮して市中心部からやや外れた上灘地区に公民館施設を借用して開設することとなった。ただし、本格的な稼働には準備が必要なことから、22日は主に設営等の準備を行い、順調であれば23日に市民からの支援要望の受け付けを開始、24日からボランティアの受け入れなど全面運用を行う計画とした。スタッフ配置は市社協職員を中心としながら、運営ノウハウは県社協と日野ボランティア・ネットワークの支援を得るなどして市民への支援活動の拡充を図っていくこととした。

倉吉福祉センター



和室研修室・吊り天井の落下



大会議室・時計の落下

3. 初期（上灘公民館 10/22～11/13）※11/14 移転日

自主運営は初めての経験ながらも多様なサポートを受けながら順調に準備が整い、センター運営がスタートした。市民からは地震による家屋の損傷、とりわけ屋根の損傷への対応依頼が殺到し、センターが被害の大きな地域にあったことやアクセスのよさの要因から電話だけでなく、直接来所による支援依頼の発信も多かった。被害の状況とともに23日の強い降雨を懸念する報道がされたため、屋根への対応依頼は単純件数の多さだけでなく市民の強い焦りや不安を伴うものとなり、初期段階の不慣れなスタッフにとっては疲労とプレッシャーの大きなものとなった。一方で早くも経験豊富なNPOだけでなく県防災士会や地元企業、民生児童委員など多様な顔ぶれが運営支援に駆けつけ、多忙な中でも徐々に業務の慣れと落ち着きを増していった。23日頃から集まり始めたボランティアの参加人数は翌週末にピークを迎えることとなった。高所での活動も経験者を中心に対応が始まった。特に屋根へのブルーシート張りは、同年4月に発生した熊本地震の被災地で活動した経験者や市内の塗装業を本業とするボランティア、倉吉青年会議所のメンバーが駆けつけてきたこともあり、市民にとって最も大きな不安を取り除くことが大切と考え、ボランティアへの保障と安全な資材等の確保に目処が立ったことから活動対象とした。センターでは2000年の鳥取県西部地震で当時の現地センターで対応した経験と広島県内のNPOによって持ち込まれた熊本地震でのノウハウが融合する形で強風に強い施工方法が確立していった。スタッフの市民の支援ニーズを落ち着いて丁寧に聴き取る姿勢と柔軟で的確なマッチング、ボランティアによる親身な活動が相まって概ね市民の満足度は高く、充実したセンター運営が展開された。

開所のほぼ一週間後に地区社協会長と自治公民館長（自治会長）、民生児童委員の協力を得て、

● 一日あたり平均ニーズ件数

平均	
57件	※開所日数24日

● ニーズ内容件数

ブルーシート	屋内外の片づけ等	計
893件	475件	1,368件

● 受付ボランティア数

市内	県内	県外	計
433人	1,002人	1,001人	2,436人

平日	週末	計
1,287人	1,149人	2,436人

● 一日あたり平均スタッフ数と延人数

平均
39.8人

社協			社協外			
倉吉市	県内	県外	企業	大学	行政	その他
140人	196人	174人	160人	79人	105人	100人

福祉専門職と学生ボランティアによる被災地域における訪問調査を実施し、初期の段階から被災者の生活状況の把握とその分析による今後の支援の構想に役立てようとしたことは多方面から評価を受けた。一方で特に市社協職員は休息をとる余裕がないまま連続勤務を重ね、その疲労は蓄積されるばかりであった。特にセンター開所からしばらくの初期はこうした状況が続いたが、県内社協やブロック派遣社協等の応援を得ていくらか負担が軽減された面はあるものの、根本的な解決を図ることが必要であった。そのため11月からは職員の休日を確保した。ブルーシート張りについては、連日朝から晩まで対応にあたっては未対応ニーズが蓄積される状況となり、市民からの支援ニーズの受け付けを絞る方針が示されるに至った。県・市から派遣された建設業協会等とともに、多くのニーズに対応していったが、日々、ニーズは寄せられた。内部共有が十分に行き届かなかったことで混乱を生んだこともあって、このことは支援者やボランティアの間でも反発や戸惑いの原因となったことから大きな反省点のひとつとなった。今後具体的な対応方法を検討する必要がある。その一方で当初課題であったマスコミ対応については、窓口をセンター長とし、ホワイトボードを使った提供情報の可視化や時間を定めての記者対応とすることで早期に解決をみた。また、センター運営や活動の現況、ボランティア募集といった情報発信については災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）の専門家による支援を受け、フェイスブックページの開設やスムーズな運用が可能となったことで効果的に行うことができた。センターの運営資金では鳥取県共同募金会や市から交付される補助金その他、企業や個人からの寄付金に支えられた。ボランティア活動に必要な資機材はこうした資金の一部で賄った他、市や団体、個人、過去の被災地からの提供や貸与を受けたことも大きく、災害時にこのような内外からの有形無形の協力に支えられていることの実感を得ながら日々安定的なセンター運営を行うことができた。



ボランティアの受付・説明



ブルーシート張り

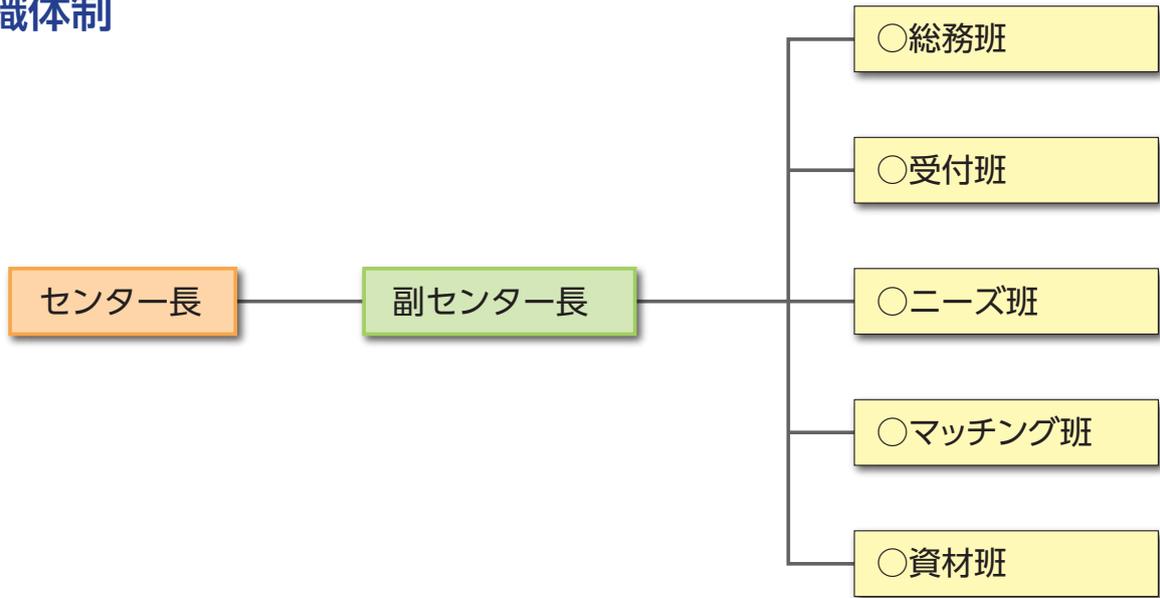


ボランティア活動のマッチング

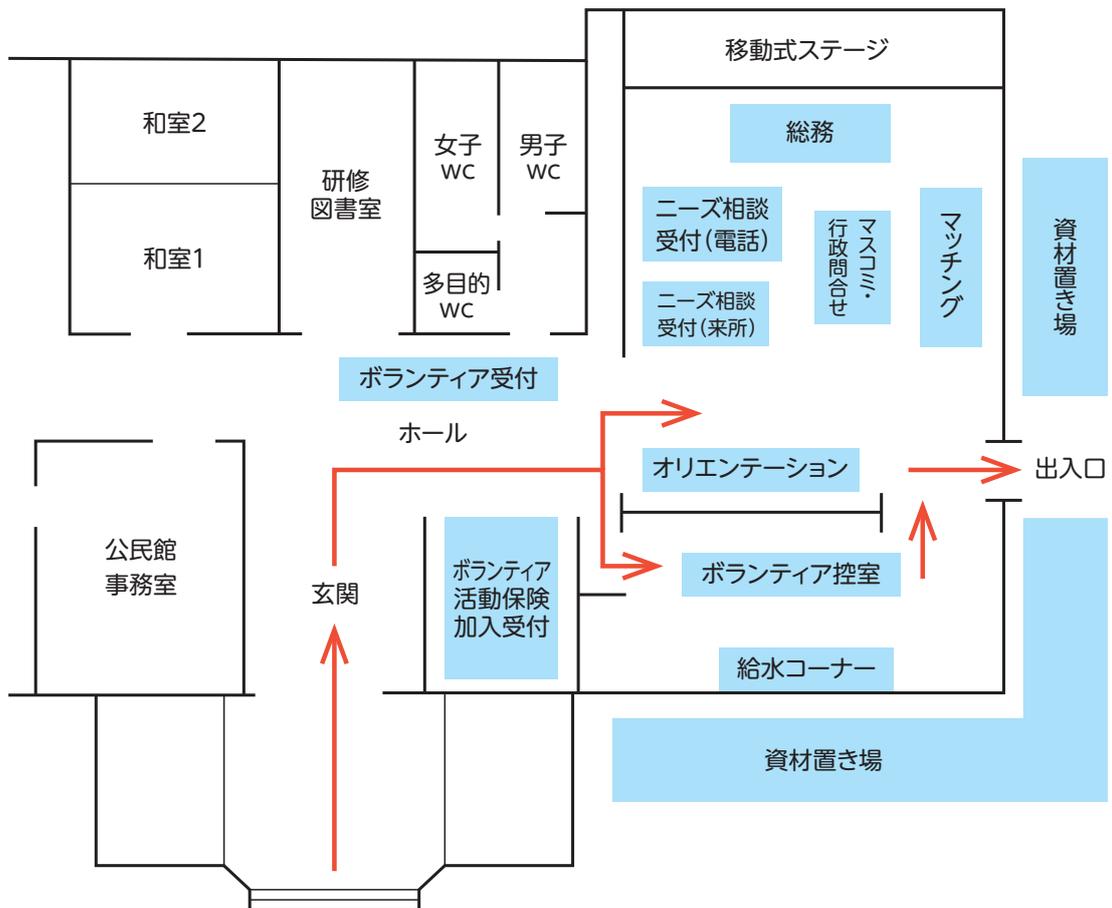


ともに活動した建設業協会

組織体制



ボランティアセンター レイアウト (上灘公民館)



4. 中期（まちかどステーション 11/15～12/25）※12/26 移転日

センター拠点の設置者である市の事情により、センターを成徳地区にあるまちかどステーションへ全面移転することとなった。ボランティアや関係者のための駐車場の確保にやや苦心する施設ではあったが、ここでも被害の顕著な地区にあったため、ニーズ調査や被災者訪問活動には有利な立地であった。センター開所からひと月が経過した段階で活動に参加する顔ぶれはさらに増えたものの、報道の落ち着きや冬へ向かう天候の悪化などでセンター運営を支えるスタッフやボランティアの減少傾向が見え始めた。減少の一方でスタッフの顔ぶれは徐々に地元中心となっていった。地域内での助け合いの気運醸成やボランティア活動への参加促進のための取り組みとして、出雲市総合ボランティアセンターの協力を得ての屋根ブルーシート張りの研修会を複数回実施した。また、NHK地元放送局によるセンターからの連続中継が行われるなどのチャンスを獲得することができた。この頃になると高校生など比較的規模の大きな団体での参加によるボランティアも目立ってきた。多くの人数での活動が可能な被災者ニーズが見当たらないことも多く、そうした場合には急きょ自治公民館長と連絡をとってローラーによる訪問活動を行う方法をとった。これはやがて半ば計画的な訪問活動へと変化していった。訪問にあたっては過去の被災地や企業から提供を受けた手作りのトートバッグや入浴剤等をお土産にボランティアの手によるメッセージカードを添えて持参した。これは訪問先の市民に非常に喜ばれ、また訪問者にとっても市民との間で会話が弾みやすく、何より喜ばれる様子を見て自分もうれしくなるなど大きな効果があった。活動に参加した大学生からは「田舎に暮らす自分のおばあちゃんのことでも大事にしようと思った」という感想が寄せられるなど、当

● 一日あたり平均ニーズ件数

平均	
10.2件	※開所日数39日

● ニーズ内容件数

ブルーシート	屋内外の片づけ等	計
162件	237件	399件

● 受付ボランティア数

市内	県内	県外	計
236人	389人	960人	1,585人

平日	週末	計
782人	803人	1,585人

● 一日あたり平均スタッフ数と延人数

平均
18.7人

社協			社協外			
倉吉市	県内	県外	企業	大学	行政	その他
171人	136人	7人	31人	31人	70人	283人

センターでは単に支援・被支援にとどまらない精神的な関係性や実地での福祉教育的な成果を生み出すような場面が多くあった。こうしたことから、平常時の市社協活動の延長にセンター運営や被災者支援活動があるとの実感を日々強くした。相変わらずセンターに寄せられる被災者による支援ニーズの多くは屋根へのブルーシート掛けや屋内外のガレキや家具の片づけといった作業系の内容のものであったが、作業であっても人への丁寧な寄り添いの意識がより浸透した時期といえる。



訪問活動

屋内活動の様子



訪問活動～あたたかいメッセージを添えて～

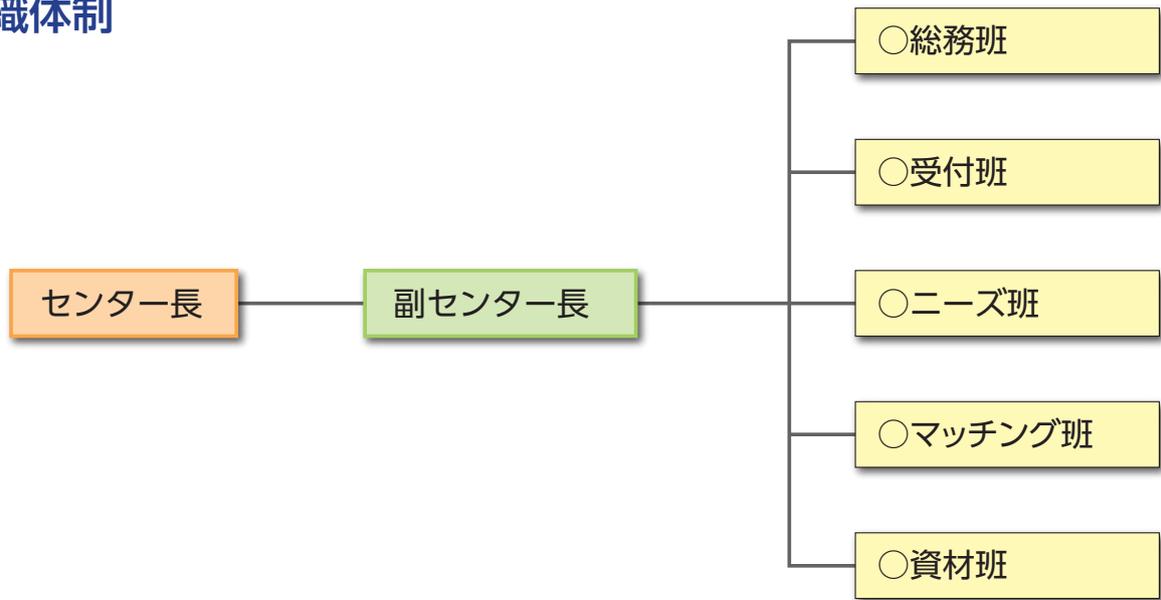


ボランティアによるコーヒー提供

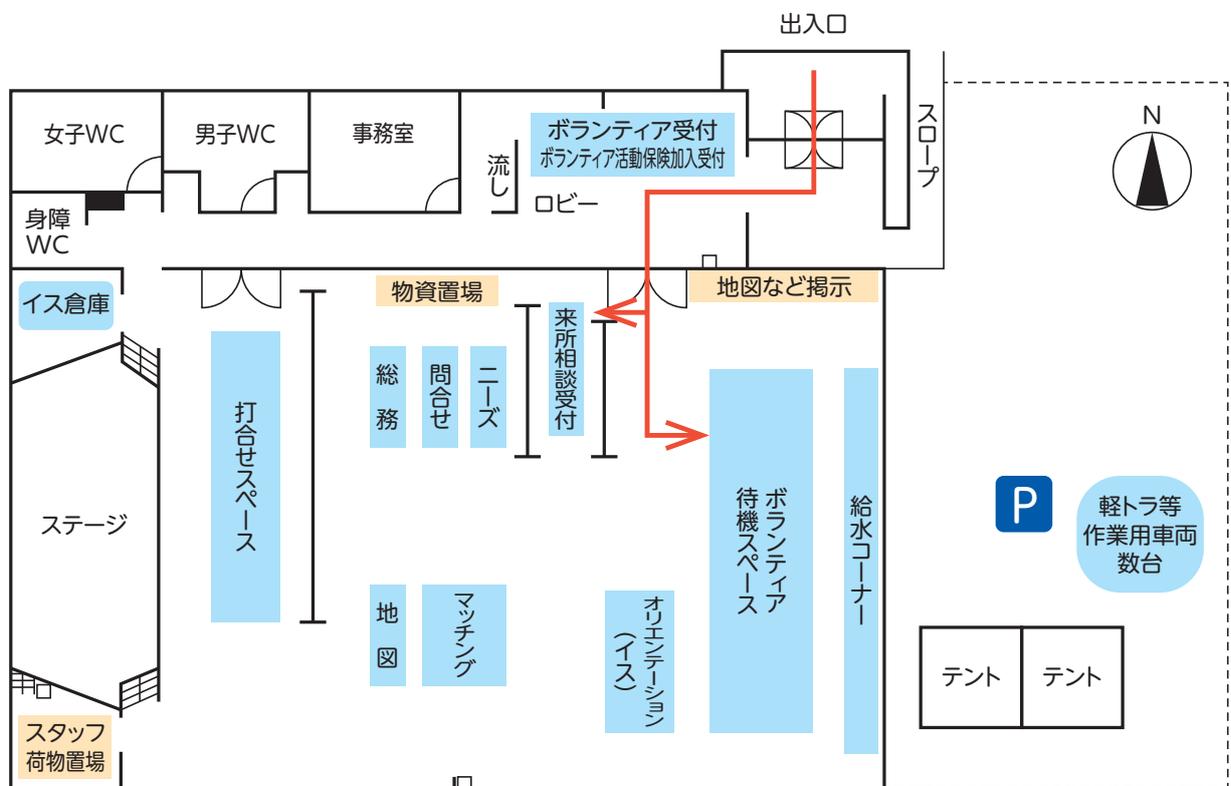


過去の被災地からの贈り物

組織体制



ボランティアセンター レイアウト (まちかどステーション)



5. 後期（倉吉福祉センター 1/6～3/31）

支援要請の減少と市社協活動との一体化の判断から、年変わりのタイミングで二度目のセンター移転となった。市社協庁舎の一部を使用しての再開となり、リピーターを中心にボランティアも協力して移転再開作業を行った。

例年と比べても積雪量の多い冬となったことや、年変わりによる風化、移転による縮小感が参加ボランティアの減少にいくらか拍車をかけた。一方で日々の活動はスタッフの努力やボランティアの理解と協力によりこれまでにないほど成熟していた。センター近隣の歩道やバス停、訪問先の玄関前などの除雪を精力的に行う様子から「ボランティアはこんなことまでしてくれるのか」と市民から感謝されることもしばしばであった。市民からの支援ニーズはやはり屋根へのブルーシート対応の依頼が多いものの、強風による剥がれや破損への対応などシートの更新を内容とするものが早くも見えていた。こうしたことは現場で活動するボランティアによるより耐久性の高い施工の工夫や研究につながり、このノウハウはやがてセンター閉所後の活動や後に発生する島根県西部地震や大阪北部地震、さらには千葉県房総半島の被災地で生かされていく。期間の経過とともに「いつをセンター閉所のタイミングとするか」「センター閉所後の被災者支援活動をどうデザインするか」がテーマとなるこの頃である。市は、災害ごみの無料引き取りを1月末で終了した。しかし、2月末から3月にかけては春一番に代表される強風の季節であり、ブルーシート張りの対応が必要となることが予想された。また、センターとして支援の必要な方のニーズが把握しきれているのか懸念され、被害が比較的大きかった市内5地区独居高齢者等500世帯を訪問して状況を確認し、今後は市社協の既存機能で対応することが可能と判断し、3月末で閉所することとした。他の被災地でも同様、センター閉所はさまざまな視点を用いて多方面と協議を重ねて判断と実行をする必要があることから非常にデリケートなテーマであり、それほどに難しいものといえ、さらに検証の余地があるといえる。

● 一日あたり平均ニーズ件数

平均	
1.6件	※開所日数37日

● ニーズ内容の割合

ブルーシート	屋内外の片づけ等	計
31件	28件	59件

● 受付ボランティア数

市内	県内	県外	計
105人	196人	227人	528人

平日	週末	計
181人	347人	528人

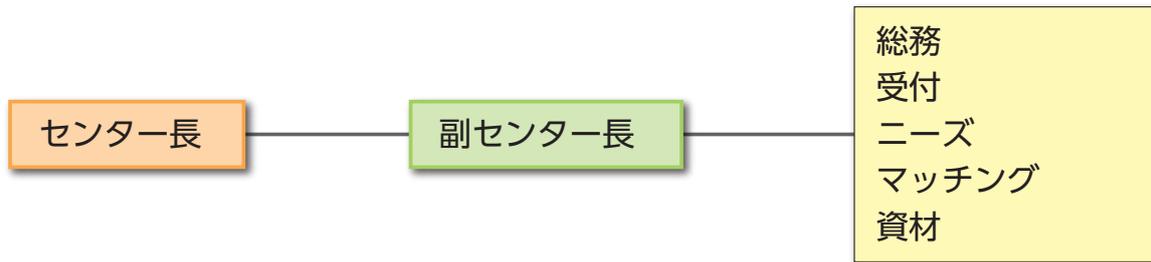
● 一日あたり平均スタッフ数と延人数

平均
3.6人

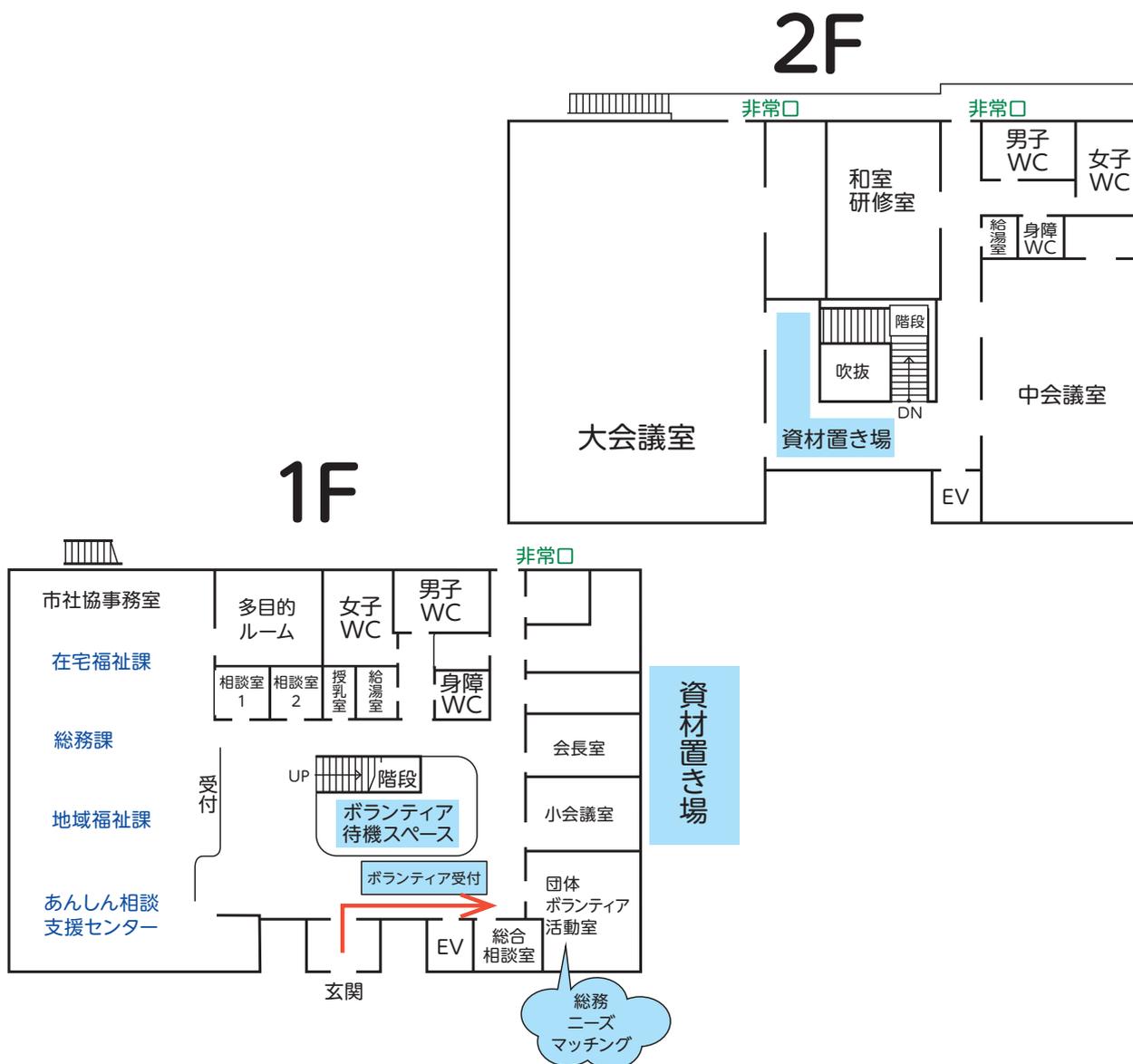
社協			社協外			
倉吉市	県内	県外	企業	大学	行政	その他
98人	0人	0人	0人	0人	18人	19人



組織体制



ボランティアセンター レイアウト (倉吉福祉センター)



6. センター閉所後と現在、総括

センター閉所後に寄せられた住宅の修繕費用や生活についての困りごとは、開所時から引き続き、市社協の相談業務を担当する「あんしん相談支援センター」で受け、時間の経過に伴って発生する事案を行政等と連携して対応している。相談を契機に家族が関係者とともに話し合う場を設ける等、市社協のソーシャルワークの機能を活かした支援も行っている。

また、ブルーシート張りの相談については、閉所後に結成された「復興支援隊 縁」が対応にあたっている。市社協では、経済的に困窮する世帯のために確保していたブルーシートや土嚢袋等の資機材と活動拠点を提供している。

そして、震災を経験し、「助けて」と声をあげられない人たちの存在に改めて気がついた。広報紙やマスコミ等の様々な媒体を通じてセンターの存在を周知したが、情報が届かなかったり、届いていても他人に迷惑をかけてはいけなと自らの力で解決しようとしたりする高齢者等がいた。そのため、地域内において支援が必要な人や必要としていても声を上げられない人に対する日常的な気配りが行われることや、社会課題に気づき、周囲の人々とともに解決に向けて考え行動できる人材を育てていくことが大切であり、子どもの頃からの成長に応じた福祉教育を進めていく必要があると考えている。

その取り組みとして、小学生・中学生と地域との交流事業を進めるとともに、地域福祉活動やボランティア活動に関心が持てるよう、次世代育成を目的として若い世代を対象に、世代を超えて話し合い協力して実践できるボランティアフェスティバルを企画・実施した。高校生や大学生、様々な分野の世代の異なるボランティア活動者が運営委員として参加し、企画から準備、当日の運営、事業の振り返りまでを主体的に行うことで、終了時には高校生や大学生たちの成長を実感する場面も多くなっている。

近年、全国各地で様々な災害が起きる中で災害に対する市民の意識は高まっており、自治公民館を中心とした支え愛マップづくりや防災マップづくりが進んでいる。これらの取り組みは災害時を想定したものに限らず、平常時の隣近所の支え合い活動や地域の担い手づくりに寄与している。

また、見守り活動や交流活動を通じて、高齢者や障がいのある人等の身近な困りごとを把握したり、早期に必要な支援につなげたりするなど、個人の困りごとを地域の課題として捉えることによって、新たな支え合いの仕組みづくりを地区社協とともに進めていきたい。そのために、その時そこにある地域や市民のニーズを確実に把握し、柔軟で広い視野と専門性、実践力で対応する市社協を目指している。



ボランティアフェスティバル



親子で防災ボランティア体験事業



支え愛マップづくり

倉吉市
災害ボランティアセンター
活動報告書

経験と提案

センター運営にあたり、被災の状況と設置場所の規模等から初期から中期は【本部・総務班】【受付班】【ニーズ班】【マッチング班】【資材班】の各部署を設け、業務を分担した。倉吉福祉センターへ場所を移した後期は、ほぼ一体的な運営を行った。

【本部・総務班】※スタッフ数(6~2名)

センター開設にあたって、県社協から部署割とレイアウトのアイデアを得て設営に取りかかった。設営は市社協職員を中心に県社協職員、県職員、日野ボランティア・ネットワーク会員等集まった全員で行い、人員配置や動線、業務手順、各種様式等の確認を行った。市内の被災状況はまだ完全に把握はされていないものの、報道や見える範囲で判断するところでは相当数の支援要請が寄せられること、全国的に他地域で大きな災害が発生していない状況からある程度のボランティアが市内外から集まることが予想された。それに基づいて準備に最善を尽くすこととしつつも、センター運営と各班業務は日々続けながら改善をしていく方針のもとにスタートした。

○活動方針と活動範囲

平常時の市社協活動をベースに、ボランティアやスタッフの安全に配慮をしつつ被災によって困難な状況にある市民の支援要請への対応にあたることとし、緊急度や重要度の高いものを優先して行うこととした。ある程度の長期化も見据え、センターの確実で安定的な運営のために各種団体・機関・個人の参加協力を広く受け入れた。

○センターの運営管理

センターの運営に必要な資金については主に県共同募金会からの災害等準備金と市補助金を充てた他、企業・団体・個人からの寄付金を充て、資機材や消耗品もこれらの財源で購入した他、団体等からの寄付や貸与によっ

て確保した。スタッフについては開設時の協力者の他に県内社協、中国ブロック社協、徳島県内社協、市内外の団体・企業、個人の参加を得、これらの協力はセンター活動の継続に大きな力となっただけでなく多忙で消耗の激しい日々の中で精神的に大いに支えられ励まされた。センター全体の雰囲気づくりには工夫を凝らし、朝礼やミーティングではスタッフのみならずボランティアの参加を通常の状態とし、全員でのラジオ体操、該当者の誕生日を祝う、積極的な声かけやあいさつ、共同での作業等を通じて一体感を生み出しながら明るい雰囲気を保った。月を追うごとに少しずつ市民生活が落ち着きを取り戻す一方でスタッフ、ボランティアともに自然に減少していったが、例年より積雪の多い冬をまたいで閉所までリピーターと長期滞在者の姿が多く見られたのはこうしたことの成果と考える。



ラジオ体操の様子

○スタッフ配置

前述したとおり中期までは多くの人的支援を得たものの短期で入れ替わっていくことが多いため各部署のリーダーを中心に連日市社

協職員を配置し、ほとんど休みを取ることができないなど負担と疲労は大きかった。被災後しばらくはある程度やむをえないとはいえ、安定的なセンター運営のためには早い段階で改善が必要であり、11月から職員は週に二日の休みを取ることが可能なシフトとし、中期からは開所時間を短縮するとともに、週に一日センターの閉所日を設けた（ただし、市民からの相談対応は休みなく行った）。その結果何とか乗り切ることができたが、災害ボランティア養成講座等を通していざという時にスタッフを務めることができる人材を平素から多く育てておくことが必要だと感じる。

○環境整備

10月下旬の開設から日を迫うごとに気温が下がる時期であったことや不特定多数の多くの人が入り出りする状況、早朝から夜遅くまで続く業務といったことからスタッフやボランティアの健康管理には留意した。積極的に暖房を利用することやうがい・手洗い・消毒の励行、センター内の清掃といった基本的なことを始め、声かけやボランティアと一緒に食事を摂るコミュニケーション、センター内での事故防止やストレス軽減のための動線確保や整理整頓、わかりやすく親しみやすい表示、給水メニューの充実等を心がけた。そうした様子を見た地元住民から電子レンジやポット等の提供を受けて、ボランティアやスタッフが毎日温かい食事を摂るこ



高校生ボランティア

とができた。業務上のストレス軽減と効率確保の上で支援プロジェクト会議メンバーによるインターネットや事務機器のインフラ整備と保守作業はありがたく、このようにそれぞれが得意なことを持ち寄って全体として過ごしやすい空間が作られたことで大きな事故やトラブルなく終えることができた。

○広報とマスコミ対応

センターの開設や移転、支援活動状況、支援要請やボランティアの募集等、センター開設期間中はさまざまな周知のための直接的な広報を行った。これらは周知の対象や内容によって行政無線、チラシ、センターでの掲示、市社協ホームページ、フェイスブック、広報紙を活用した。いずれもわかりやすく伝わりやすいよう文言や文字の大きさを工夫したが、センター閉所の時期に至ってもセンターの存在を知らない市民もおり、あらためて広報の難しさを感じた。直接的な広報の他にサロン等市民が集まる場を利用しての口コミといった間接的な手段を積極的にとる必要があったと感じる。マッチング班との連携によってボランティアによる訪問活動でチラシを配布する方法は市民にとって印象に残りやすく、安心感も手伝って非常に有効だったと思われる。また、マスコミ報道は情報の伝達の面で非常に重要である一方でその対応は混乱を生みやすいことから、窓口をセンター長に一元化して毎日定時に取材を受けることとした。センター活動の基本情報はホワイトボードに書き出してどの報道機関にもいつでも見られるよう配慮した。フェイスブックページは被災後に開設し、活動の様子、市民やボランティアの表情、トピック等を毎日1～3件発信し、その担当は主に日野ボランティアネットワークが担った。センターの運営に非常に有効なツールであるものの、ページ開設から閲覧者の目に触れるまで多少時間を要するため平常時から開設運用しておくことが備えになると感じた。



チラシ



取材協力

○各部署との調整

初期は朝夕のスタッフミーティングを時間をかけて行い、状況把握と情報共有、調整を重ねて課題解決を行っていった一方で、中期以降慣れるにしたがってやや緩くなっていった。このことから小さな混乱が内部で生じたこともあり、意識して修正していく必要があった。



スタッフミーティング



戸別訪問打ち合わせ

○活動の企画

刻々と変化する状況に的確に対応するため、センターとしていくつか事業の企画実施を行った。その例として、市民からの相談による被災への対応にとどまらず、市民の生活や困難な状況の把握の必要性を感じ、センター開設一週間後のタイミングで地域を特定して戸別訪問による状況調査を行うなどした。企画実施にあたっては、すでに訪問を行っていた市保健部門や関係機関と協議するとともに、自治公民館長、民生児童委員、保健福祉専門職、学生、NPO他の協力を得、調査によって得られた情報をサンプルとしてセンター活動を行っていく上での参考とした。ある程度定期的かつ継続的な企画実施とすることが課題であった。また、膨大ともいえる屋根破損に関する市民からの相談や支援依頼への対応に地域内での助け合いを生かし、安全なブルーシートの張り方を学んでもらうねらいから、市内の自治公民館長等を対象とし、出雲市総合ボランティアセンターや専門ボランティアの協力を得て屋根ブルーシートの張り方



屋根ブルーシートの張り方研修会の様子



研修会を三日間で延べ5回実施した。こうした企画は市民や関係者の間に、ブルーシート張りに対する学びの場であったと同時に、「地域や自分たちができることは何かを考える」という感覚を生む助けにもなった。そして、大学等と連携し、高齢者等の集う地域のサロンへ保健師等が出向き、健康についての話やレクリエーションをとおして、人と話し思い切り笑うことによって心や体が元気になる取り組みを行った。

【受付班】 ※スタッフ数(12～2名)

開設当初の不慣れと多くの来所者が相まって緊張や混雑が強い場面で大きな支援力を発揮したのが、郵便局長からなる県防災士会と地元銀行の方々であった。窓口業務に長けたこれらの方々にはボランティア受付手続きやボランティア保険料の収受をソフトかつ確実に、混雑解消の面でも大いに助けられた。そのノウハウは他のスタッフに受け継がれ、受付付近での大きな混雑は最後まで起きなかった。その手前のセンター駐車場の車両の出入りの誘導に地元民生児童委員や日赤奉仕団員があたって渋滞の緩和や安全確保を行うなどの工夫や努力があり、こうしたことがセンター全体の動線をスムーズなものとしていた。ボランティアの高速道路無料申請手続きは当時市役所との連携が必要であったが、毎日市から福祉課職員の派遣を受けて行われたことで申請者の利便性が向上するなどして対応がスムーズに行われた。



受付

【ニーズ班】 ※スタッフ数(8～3名)

市民や関係機関・団体から寄せられる様々な困りごとを把握する部署として、直接来所と電話に対応する態勢をとった。開設初期には電話での支援依頼が殺到する状況となっただけでなく、来所相談の件数が比較的多かったことからスタッフの負担は大きかった。依頼者による口頭説明である程度想像ができる家屋内の状況と違って屋根の破損状況の把握は困難であり、作成されるニーズ票も抽象的かつ不正確にならざるを得なかった。こうしたことから依頼者から強い苦情が寄せられる事態も起きた。日を重ねるごとに聴き取りのコツをつかんでいき、また来所の依頼者へはまず飲み物を勧めて互いに和んでから話を始めるなどして徐々に落ち着いていった。直に多くの市民と接する部署であることから困りごとの聴き取りにあたっては一貫した方針や姿勢の保持が必要であり、そのための態勢の維持とスタッフへの精神面を含めたフォローが課題であった。

○ニーズ受付（聴き取り）

スタッフ数名で電話および来所対応の形で行った。基本的にリーダーは直接対応せずスタッフのサポートに当たることとしたが、特に初期はそれもままならないほど多忙であった。市民の窮状に対してなるべく早く、かつ多くの支援要請を受けるためには相応の態勢を敷く必要があるが、それが困難な時には受信電話機の数や調整する等の策が必要だったかもしれない。スタッフの余裕の度合いは聴き取りの質に影響することもあり、それはニーズ受付の次のマッチングにも影響するともいえる。非常にジレンマを感じる部分ではあるが、受付数と受付の質のバランスをどうとっていくかは課題のひとつといえる。やがて一日あたりの支援要請数は落ち着いていったが、スタッフの体力的な頑張りの他に、聴き取りの精度を上げるために共感や寄り添いの姿勢で会話をしながら必要な事柄を把握していくことやニーズ票記入の工夫等で乗り切っていた。



応援スタッフによるニーズの聴き取り

ターのことを知らない、あるいは理解が乏しい市民の困りごとや生活状況の把握に非常に有効であった。



福祉専門職による訪問活動



ボランティアによる訪問活動

○ニーズ把握（調査）

電話や来所で支援要請を受け取るだけでなく、地域へ出向いて市民や地域の困りごとを把握するという方法も取った。これは本部企画の福祉専門職による戸別訪問やマッチング班企画の一般ボランティアによるローラー調査、マッチング班を通じて現地活動ボランティアから寄せられる情報を活用して行い、セン

【マッチング班】※スタッフ数(11~4名)

ある程度被災地内での状況の把握や業務への慣れが進むまではマッチングのコツをつかむことが難しく、緊張や疲労が強かった。経験を有するNPOやボランティアの助けを得ながら徐々に仕組みを構築しつつ、ボランティア待機所のレイアウトの工夫や積極的な声掛けを行う

など好ましい雰囲気を生み出していくことで初期の混乱を脱していった。被災者からの依頼に対しては現地に出向いて直接話を聴きながら被災状況を確認することで精度の高いマッチングに努めた。市民からは屋根の破損による雨漏りの不安への対応依頼が多かったことから必然的に高所での危険を伴う活動の割合が相当高く、秋から冬の降雨や春先の強風など悪条件と相まって活動中のボランティアの安全確保に終始苦慮することとなった。労働基準法の規制を受けないボランティア活動の性格上安全と危険の基準があいまいであり、それぞれ状況が異なる現場でのボランティアの判断に最終的に委ねられるとしても、よりよい判断のための注意喚起、情報提供、センターとしての一応の安全基準の作成や見直しといったことを常に行わなければならない。ボランティアに対しては一方的な指示の形はとらず、経験者や現場の声に耳を傾けながらセンター全体で合意を形成しつつ日々活動を進めていくことを目指した。時として互いの間で見解や方針を巡って相違が生じることがあったが、話し合いによって大きな問題にはならず済んだ。日を重ねるにしたがって市民から活動に対する感謝や喜ばれたエピソードが寄せられるようになり、そのことをスタッフとボランティアの間で共有することで一体感を維持することに努めたことが少なからず効果を生んだ。



ブルーシート張り活動



ブルーシート屋根の様子

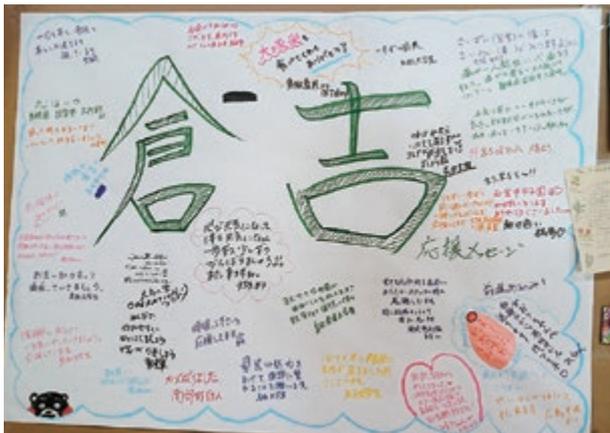


がれきの廃棄

○ボランティア待機所

センターが混雑する初期にはマッチングまでの待機時間が長くなりがちなブースであり、ボランティアの疲労や焦燥感を和らげる工夫を行うことで対処した。待機時間中を利用した情報提供のために市内の被害状況やセンターの活動状況といった基本情報を壁面に見やすく掲示した他、市内の観光案内や各種広報紙、地方新聞を置いて地元について知ってもらいながら待ち時間の楽しみも生み出した。テーブルの上には小さな花を置いたり壁に寄せ書きを掲示するなど、落ち着いて和やかな雰囲気が生まれるよう配慮した。ボランティアが腰かけて待つイスはある程度互いに向き合う並べ方とし、ボランティア同士でコミュニケーションが生まれるように工夫した。このイスの並べ方はボランティアに対しスタッフがマッチングと説明を行う際にも声を通りやすく有効であった。冷え込みが強くなった

中期以降は石油ストーブとイスを広く配置して、その周りでスタッフとボランティアの間で談笑が交わされるシーンが多く見られた。そうした中でボランティアから被災市民へのクリスマス訪問の提案が生まれ、待機時間を利用してカードやプレゼントを一緒に用意する等のエピソードが生まれた。



メッセージ



○マッチング

初期は多くの支援要請とボランティアへの対応に追われる形で混乱の中で行われていたが、前項で述べたようなこともあって次第と落ち着いていった。ニーズ班やボランティアとの連携、現場に出向いての聴き取りや確認が功を奏してマッチングの精度は日に日に高まり、様式や書類整理の見直しによって業務も効率化していくことができた。単なる数合わせではなく支援要請者の事情や背景、性別等を考慮したマッチングに努め、初期の混乱を脱した後は市社協本来の対応ができていった。それでもトラブルは皆無ではなかったものの、その際の対応は本部との連携により丁寧に行うことで幸い大きな事態を招くことはなかった。何より経験を有するボランティアスタッフの助言や援助に支えられ、職員スタッフは安心して業務にあたることができた。



マッチング班の様子

○オリエンテーション

ボランティアに対して個々の活動にあたっての説明と事故防止等の注意喚起は主に配布資料と口頭で行った。説明は活動先の依頼者の大まかなプロフィールや状況をイメージしやすいように、また注意喚起は禁止の羅列にならないようボランティアが本来持つ常識や経験を前提に各自が的確に判断しながら気持ちよく活動できることに配慮した。時折本センターでの活動が豊富なボランティアがオリ

エンターション役を務めるなど、スタッフとボランティア、ベテランと新人の間に連帯感が生まれるように工夫した。



活動前の説明

○活動報告

活動を終えてセンターへ戻ってきたボランティアから、活動先での周辺を含めた状況、依頼者の様子、活動の結果をスタッフが個別に聴き取りした。ここで新たな支援要請の受け取りや発掘に繋がることも多く、活動を終えて疲労の大きいボランティアへ温かい飲み物を勧め、労いながら丁寧に聴き取った。依頼者がボランティアの手を握って喜ばれたことや寒い中活動するボランティアの体調を気遣われた等のエピソードが多く寄せられ、スタッフとボランティアの間に共に喜ぶことができたことはよかった。



訪問活動後の振り返り

【資材班】 ※スタッフ数(5～2名)

必要な資機材は行政、共同募金会、企業、個人による支援を受けて購入、借り上げ、寄贈（提供）によって確保し、概ね不足することなく活動することができた。活動先への移動は基本的にボランティアがそれぞれ自家用車で移動することとしたが、活動中の駐車場所の提供など目に見えないところでの市民の協力もあって可能となった。個人装備に類するものは多くのボランティアが各自用意しており、こうした面でも協力的だった。センター開設期間を通じてほぼ同じボランティアスタッフが担当したこともあって貸し出し場面で大きな混乱は生じなかった。資機材の破損や紛失は皆無ではなかったが、この規模と状況のセンターでは非常に少なかったといえる。貸与を受けた物品については閉所時に返却し、余剰となった物品は他の被災地へ提供したり地元NPOへ引き継がれた。

○資材の確保

経験者からの助言等により震災対応型センターに必要と思われる基本的な資機材は初期にはほぼ確保することができた。その後活動の継続や拡大に従って必要なものはボランティアやスタッフからの提案や要望を元に総務班と調整の上で入手確保した。

○資材の管理

毎日のボランティアへの資材の貸し出しに備えてスタッフは前日夕方及び当日朝に保有資機材を揃え、貸し出ししやすい（見やすい・取り出しやすい）ように配置した。マッチングを終えたボランティアが手元のニーズ票を元に資材ブースで必要資材を確保し、各自車両に積み込んでいく方式で、スタッフによる確認は比較的緩やかに行った。使用による汚破損はいくらか生じたものの、ボランティアは使用後の洗浄や整理を進んで行き、最大15台借り上げていた軽トラックの給油や洗車もスタッフとボランティアが共に行うなどして、概ね良好な状態で資機材が使用された。一部市民の勘違いからか保管中の土嚢が早朝に無断で持ち去られることがあり、屋外保管するものについては注意書きをする等の対応が必要と感じた。



過去の被災地から資材の提供



くらすけくん土のうで倉吉らしく

倉吉市
災害ボランティアセンター
活動報告書

参考資料・活動写真

倉吉市災害ボランティアセンターの開設状況(平成28年10月22日～平成29年3月31日)

①運営状況

期間	場所	時間	その他
H28. 10. 22 ～11. 13	上灘公民館	8:30～17:00	休日なし 11. 14移転作業
11. 15 ～12. 25	まちかどステーション	9:00～16:00	12月から火曜日休所 12. 26移転作業
H29. 1. 6 ～3. 31	倉吉福祉センター	9:00～16:00	毎週金・土・日曜日 *屋根作業は随時実施

* H28.11.14、12.26～H29.1.5については、倉吉福祉センターで対応

②ボランティアセンタースタッフ(延数) 平成28年10月23日～平成29年3月31日

社協関係		協力団体		合計 (人)	* その他の協力団体 ・防災士会 ・民生児童委員連合協議会 ・ボランティア連絡協議会 ・赤十字奉仕団 ・施設連絡協議会 等	
県内	倉吉市	403	企業			191
	市町村	227	大学			110
	県社協	101	行政			189
県外		181	その他			402
計		912	計	892	1,804	

③依頼への対応状況(延数) (件)

	活動受付	完了	キャンセル
屋内外の片付け等	740	588	152
ブルーシート張り	1,086	732	354
計	1,826	1,320	506

④ボランティアの状況(延数) (人)

	個人	団体	計	
県内	1,158	1,203 213団体	2,361	市内 774
県外	1,430	758 112団体	2,188	市外 1,587
計	2,588	1,961 325団体	4,549	

⑤活動内容

屋根のブルーシート張り、屋内外の片付け、ブロック塀等の撤去、災害瓦礫の片付け、運搬、訪問活動、高齢者世帯等戸別訪問 等

【ニーズ地区別内訳】(延数)

地区名	ブルーシート	屋内外掃除 がれき撤去等	計
上北条	38	21	59
上井	90	64	154
西郷	77	50	127
上灘	160	122	282
成徳	201	185	386
明倫	146	68	214
灘手	15	11	26
社	119	72	191
北谷	11	5	16
高城	39	17	56
小鴨	160	103	263
上小鴨	12	9	21
関金	7	5	12
その他/不明	11	8	19
計	1,086	740	1,826

【訪問活動】

期 日	場 所	参加者	備 考
H28. 10. 29	上井地区	鳥大保健学科、社会福祉士会、市社協	民生児童委員等の気になる方を訪問(現状を聞き取る)
10. 30			
11. 13	東昭和町、昭和町1・2丁目、三明寺西、古川沢、大原、上神、下余戸、虹ヶ丘、明治町	ボランティア、市社協	ボランティア活動に入ったお宅を訪問(その後の様子を聞く、移転のお知らせのチラシ配布)
11. 19	伊木		
11. 22	新町1・2・3丁目		
11. 25	北野		
11. 30	北野		
12. 24	越殿町		
H29. 1. 7	越中町		
1. 28	河原町		

期 日	場 所	参加者	備 考
H29. 2. 3	上灘地区	鳥大保健学科、社会福祉士会、精神保健福祉士会、介護支援専門員連絡協議会、介護福祉士会、市社協	被害の大きかった上灘、成徳、明倫、社、小鴨地区の福祉協力員対象者(包括等が関わっていない方) 震災前後の心と身体、生活の変化や、困っていることを聞き取る
2. 18	上灘地区		
2. 24	成徳地区		
2. 25	成徳地区		
2. 26	成徳地区		
3. 1	成徳地区		
3. 2	成徳地区		
3. 3	社・成徳地区		
3. 4	社・小鴨地区		
3. 5	社・小鴨地区		
3. 10	小鴨・明倫地区		
3. 11	明倫地区		

⑥屋根ブルーシートの張り方研修会の開催

期 日	回数	参加者(人)	開催場所
H28. 11. 23	2	140	まちかどステーション
11. 24	1		
11. 25	2		

⑦活動報告・講演

期 日	会議等	主 催	場 所
H29. 2. 3	倉吉市自治公民館連合会常任委員会	倉吉市自治公民館連合会	倉吉市役所
2. 3	倉吉市民生児童委員地区正副会長会研修会	倉吉市民生児童委員連合協議会	倉吉シティホテル
2. 8	災害看護特別授業	鳥取看護大学	鳥取看護大学
2. 19	灘手小地域ネットワーク研修会	灘手地区社協	灘手公民館
2. 28	鳥取県身体障害者福祉協会研修会	鳥取県身体障害者福祉協会	北栄町農村環境改善センター
3. 10	市町村社協役員セミナー	鳥取県社会福祉協議会	福祉人材研修センター
3. 22~23	近畿ブロック社協災害ボランティアセンター運営者研修	近畿ブロック府県・指定都市社会福祉協議会	和歌山県白浜市
3. 26	北谷地区自治公民館役員研修会	北谷地区自治公民館協議会	北谷公民館

⑧視察受け入れ

(人)

期 日	来訪者	場 所	備 考
H28. 10. 29	内閣府総務副大臣	上灘公民館	
11. 17	智頭町地区社協役員	まちかどステーション	17
11. 24	静岡県掛川市下俣区役員	〃	8
12. 18	災害看護フォーラム(鳥取看護大学)講師等	〃	3
12. 22	兵庫県高砂市社協	〃	5
H29. 1. 28	出雲市平田コミュニティセンター	倉吉福祉センター	25
3. 3	ルーテル学院大学教授等	〃	2

*その他 全国社会福祉協議会、中央共同募金会

倉吉市災害ボランティアセンター設置規程

社会福祉法人 倉吉市社会福祉協議会

(目 的)

第1条 倉吉市地域防災計画（以下「防災計画」）に基づき、市内において、地震、水害等の災害が発生した際に、市民ボランティア並びに各地より訪れるボランティアを受け入れ、関係機関との連絡、適正な情報収集・提供、ボランティアの受け入れ及び派遣を調整する等、迅速な対応を行うため、倉吉市災害ボランティアセンター（以下「市災害ボランティアセンター」という。）を設置することを目的とします。

(設 置)

第2条 市災害ボランティアセンターは、倉吉市災害対策本部（以下「市対策本部」という。）と連携のもとに倉吉市社会福祉協議会（以下「市社協」という。）が設置し、市社協会長を市災害ボランティアセンター本部長（以下「センター本部長」という。）とします。

(設置場所)

第3条 市災害ボランティアセンターは、市対策本部と協議の上、市社協内に設置します。
ただし、市社協が被災し、施設を使用することができない場合は、市対策本部に要請し、公共施設の提供を受けるものとします。
2 必要に応じて、市災害ボランティアセンターの出先となる現地センターを設置します。

(運 営)

第4条 市災害ボランティアセンターの運営にあたっては、市対策本部と連携し、鳥取県社会福祉協議会、倉吉市ボランティア連絡協議会等の協力を得て、センター本部長の基、迅速かつ円滑な運営に努めるものとします。
2 市社協会長は、倉吉市災害ボランティアセンター活動マニュアルを別に定めます。

(業務内容)

第5条 市災害ボランティアセンターは次の業務を行い、センター本部長が統括します。
(1) 被災者の生活支援に係るボランティア派遣のニーズの把握に関すること
(2) ボランティアの募集に関すること
(3) ボランティアの受け付け、登録及び派遣に関すること
(4) ボランティアの保険に関すること
(5) その他、ボランティアに対する必要な支援に関すること

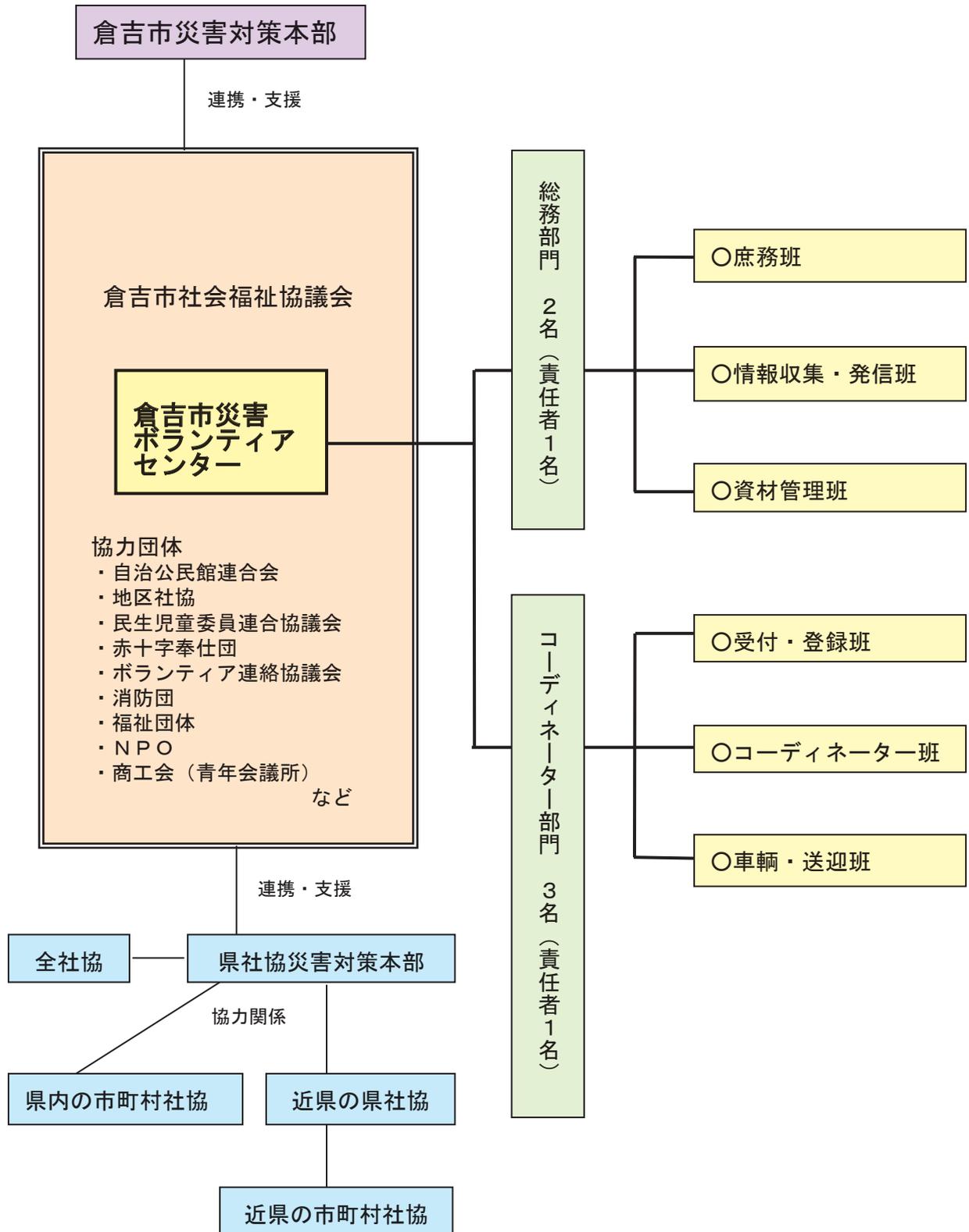
(委 任)

第6条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、市社協会長が別に定めるものとします。

附 則

1 この規程は、平成21年12月17日から施行する。

倉吉市災害ボランティアセンター活動マニュアル上の組織図



倉吉市災害ボランティアセンター事業決算書

収入

単位:円

区 分	決算額	摘 要
1 一般寄附金収入	3,249,303	倉吉市社会福祉協議会災害支援金
2 災害ボランティアセンター事業費補助金収入	3,161,000	市補助金
3 災害活動支援金収入	5,508,894	鳥取県共同募金会 活動拠点事務所支援資金
4 その他補助金収入	2,599,592	支援募金(ヤフー基金)
計	14,518,789	

支出

区 分	決算額	摘 要
1 人件費支出	1,820,543	
職員給与と支出	1,190,097	時間外手当 10～3月
非常勤職員給与と支出	630,446	非常勤・補助職員 11月～
2 事業費支出	11,758,406	
諸謝金	100,000	ブルーシート張り講習会講師謝金(4回分)
消耗器具備品費支出	5,218,051	コピー用紙、ホワイトボード、パーテーション、文具他 事務用品、ボランティア活動資機材他
印刷製本支出	4,808	名刺代
通信運搬費支出	254,800	固定電話・携帯電話代、切手代他
燃料費支出	109,997	ストーブ灯油代
車輦費支出	226,390	軽トラガソリン代
賃借料支出	2,891,713	電話回線他リース料、災害ボランティアセンター使用料、軽トラレンタル料の一部 軽トラレンタル料(13台)の一部 軽トラ賃借料(1台)
広報費支出	59,940	センター移転チラシ製作費
手数料支出	212,501	ホームページ更新、ネットワーク接続、電話設置工事手数料他
食糧費支出	12,290	ボランティア飲み物代他
業務委託費支出	2,667,916	チラシ配布料 日野ボランティア(スーパーバイザー 2名分)、コミサポひろしま(4名分)
3 事務費支出	39,840	
保険料	2,580	ボランティア保険掛金(介護福祉士会)
資料図書費支出	37,260	住宅地図他
計	13,618,789	
予備費	900,000	

1. 災害支援金受付状況

個人	13件	56,837円
団体	24件	3,139,589円
支援金受付箱		52,877円
合計		3,249,303円

2. 活動物品提供一覧

(順不同)

- ①ブルーシート、UV対応黒土のう
- ②紙コップ、軍手、マスク、タオル、雑巾 他
- ③食材（レトルト、インスタント）、飲料水、スポーツドリンク、栄養ドリンク 他
- ④ホッカイロ、入浴剤 他
- ⑤バリスタマシン、電気ポット 他
- ⑥なごみ和バック
- ⑦手編みベスト、手編みたわし
- ⑧手編みネックウオーマー
- ⑨お食事券、入浴券

3. 資機材一覧（借用物品も含む）

事務用品、事務機器一式		屋外活動	
①パソコン、インターネット接続機器		①二連はしご、脚立	
②プリンタ FAX 複合機		②インパクトドライバー	
③電話、携帯電話、スマートフォン		③ロープ	
④デジタルカメラ		④軽トラック、養生用コンパネ	
⑤ホワイトボード		⑤ブルーシート（全天候型）	
⑥住宅地図		⑥土のう、土のう袋	
⑦パーテーション		⑦野地板、木材	
⑧マイク、拡声器		⑧コースレッド	
⑨ドラムリール		⑨針金、ワイヤーカッター	
⑩ビブス		⑩バール、ハンマー、はつり機	
⑪バインダー、クリアファイル		⑪一輪車、バケツ、てみ	
⑫暖房器具（石油ストーブ）		⑫角・剣スコップ	
⑬ポット、電子レンジ 他		⑬雑巾、ほうき、ブラシ 他	
⑭駐車場用カラーコーン		⑭ヘルメット、ゴーグル、長靴 他	
⑮テント		⑮防塵用マスク、軍手	
⑯事務用品一式		⑯ゴミ袋	
衛生用品一式			
①救急手当セット		④タオル、雑巾	
②洗剤、消毒液		⑤飲料水、紙コップ	
③マスク		⑥掃除用具一式	

ボランティア受付票(個人)

【様式2】

新規		受付NO.			
		受付年月日		平成28年 月 日()	
		受付者氏名			
フリガナ		性別	男・女	年齢	歳
氏名		血液型	A / B / O / AB / 不明 (RH+ / RH-)		
住所	〒 -	電話番号	() -		
		ファックス番号	() -		
		携帯電話番号	- -		
健康状態	<input type="checkbox"/> 良好・ <input type="checkbox"/> 不良 (アレルギー・服薬等の状態:)				
緊急連絡先 (未成年は保護者)	だれに	(例:父・母・兄弟・祖父等)			
	どこに	(例:父の職場 ○○会社)			
	電話番号				
活動期間	月 日() ~ 月 日() ※1日のみの場合でも記入ください。 (例:10月26日~10月26日)				
同行者氏名					
ボランティア活動 保険加入状況	加入済(タイプ)・未加入 → 加入(天災 A・天災 B) ※ 災害ボランティア活動(地震・噴火・津波)をする方は、ボランティア活動保険の天災タイプに加入する必要があります。				
活動証明書 発行希望	要 ・ 不要				
活動希望内容	<input type="checkbox"/> 特になし <input type="checkbox"/> あり 1. 被災住民の安否確認 2. 避難所の運営協力 3. 物資の運搬や仕分け 4. 炊き出し 5. 家屋の片付け 6. 家屋の補修() 7. 引越しの手伝い 8. 運転・移送 9. 高齢者・障がい者介助・介護 10. 保育の手伝い 11. 手話通訳 12. 外国語通訳() 13. 災害ボランティアセンターの運営補助 14. 清掃 15. 洗濯 16. 話し相手 17. その他()				
活動経験	<input type="checkbox"/> あり(具体的に:) <input type="checkbox"/> なし				
免許・資格 技術・特技	<input type="checkbox"/> 特になし <input type="checkbox"/> あり 1. 普通自動車免許 2. 大型自動車免許 3. 特殊車輛免許 4. 医師 5. 看護師 6. 介護福祉士 7. 保育士 8. 大工 9. 左官 10. その他()				
宿泊先の確保	<input type="checkbox"/> あり・ <input type="checkbox"/> 未確保・ <input type="checkbox"/> 必要なし				
交通手段	<input type="checkbox"/> 自動車で来所・ <input type="checkbox"/> 公共交通機関で来所・ <input type="checkbox"/> 徒歩・自転車 ↓ あなたの自動車を「ボランティアの派遣車輛」として使用してよろしいですか。 ※使用の際は、他のボランティアが同乗することになります。 <input type="checkbox"/> はい・ <input type="checkbox"/> いいえ				
その他 特記事項					

□個人情報の取り扱いについて

「ボランティア受付票」に記載された個人情報は、災害ボランティア活動での連絡や派遣調整以外には使用しません。

倉吉市災害ボランティアセンター

【様式3】

ボランティア受付票(団体)

新規

受付NO.	
受付年月日	平成28年 月 日()
受付者氏名	

フリガナ		フリガナ	
団体名		団体代表者名	
代表者住所	〒	代表者連絡先	
		電話番号	() -
		ファックス番号	() -
		携帯電話番号	- -
人数	名 (男性 名、女性 名)		
健康状態	<input type="checkbox"/> 全員良好 <input type="checkbox"/> 不良な者がいる		
活動期間	月 日() ~ 月 日() ※1日のみの場合でも記入ください。 (例: 10月26日~10月26日)		
活動証明書発行希望	<input type="checkbox"/> 要(個人ごと・団体一括) ・ <input type="checkbox"/> 不要		
活動希望内容	<input type="checkbox"/> 特になし <input type="checkbox"/> あり 1. 被災住民の安否確認 2. 避難所の運営協力 3. 物資の運搬や仕分け 4. 炊き出し 5. 家屋の片付け 6. 家屋の補修() 7. 引越しの手伝い 8. 運転・移送 9. 高齢者・障がい者介助・介護 10. 保育の手伝い 11. 手話通訳 12. 外国語通訳() 13. 災害ボランティアセンターの運営補助 14. 清掃 15. 洗濯 16. 話し相手 17. その他()		
交通手段	<input type="checkbox"/> 自動車で来所 ・ <input type="checkbox"/> 公共交通機関で来所 ・ <input type="checkbox"/> 徒歩・自転車 ↓ あなたの自動車を「ボランティアの派遣車両」として使用してよろしいですか。 ※使用の際は、他のボランティアが同乗することになります。 <input type="checkbox"/> はい ・ <input type="checkbox"/> いいえ		
その他特記事項			

→ 裏へ

個人情報の取り扱いについて

「ボランティア受付票」に記載された個人情報は、災害ボランティア活動での連絡や派遣調整以外には使用しません。

倉吉市災害ボランティアセンター

ボランティア受付表(団体)裏面

NO.	(フリガナ) 氏 名	性別	住 所	血液型	年齢	ボランティア活動 保険加入状況	活動証明書 発行希望	備考(アレルギー・ 服薬等があればご 記入ください。)
				A/B/O/AB RH(+/-)		加入/未加入 →加入(天災 A・天災B)	要・不要	
				A/B/O/AB RH(+/-)		加入/未加入 →加入(天災 A・天災B)	要・不要	
				A/B/O/AB RH(+/-)		加入/未加入 →加入(天災 A・天災B)	要・不要	
				A/B/O/AB RH(+/-)		加入/未加入 →加入(天災 A・天災B)	要・不要	
				A/B/O/AB RH(+/-)		加入/未加入 →加入(天災 A・天災B)	要・不要	
				A/B/O/AB RH(+/-)		加入/未加入 →加入(天災 A・天災B)	要・不要	
				A/B/O/AB RH(+/-)		加入/未加入 →加入(天災 A・天災B)	要・不要	
				A/B/O/AB RH(+/-)		加入/未加入 →加入(天災 A・天災B)	要・不要	
				A/B/O/AB RH(+/-)		加入/未加入 →加入(天災 A・天災B)	要・不要	
				A/B/O/AB RH(+/-)		加入/未加入 →加入(天災 A・天災B)	要・不要	
				A/B/O/AB RH(+/-)		加入/未加入 →加入(天災 A・天災B)	要・不要	
				A/B/O/AB RH(+/-)		加入/未加入 →加入(天災 A・天災B)	要・不要	
				A/B/O/AB RH(+/-)		加入/未加入 →加入(天災 A・天災B)	要・不要	
				A/B/O/AB RH(+/-)		加入/未加入 →加入(天災 A・天災B)	要・不要	
				A/B/O/AB RH(+/-)		加入/未加入 →加入(天災 A・天災B)	要・不要	
				A/B/O/AB RH(+/-)		加入/未加入 →加入(天災 A・天災B)	要・不要	

※ 上記の名簿は、ご記入いただく他、次の方法でも可能です。
 ①貴団体が作成した名簿を添付(右記の項目に準ずること)
 ②各自がボランティア受付票(個人)に記入し添付

※ 保険未加入者には活動の紹介ができないので加入が必要です。

原寸大



ニーズ受付票(依頼)

No.

【様式7】

【スタッフ聞き取り・記入用】

地区

ニーズ受付No.	
受付年月日	令和 年 月 日 ()
受付時間	午前・午後 時 分
受付者氏名	

※ 自治公民館長、民生児童委員等より要支援者へのボランティア支援を依頼された場合は、その要支援者本人がボランティア支援を要望しているのかを確認すること。

フリガナ		区分	自治公民館長・民生児童委員・役所・その他()
相談者氏名	※ 依頼者と同様の場合は記入する必要なし。	電話番号	() -

フリガナ		性別	男・女	年齢		歳
依頼者氏名		電話番号	() -	携帯電話番号	-	-
依頼者住所	〒 【～ 月 日ごろまで避難所「 」】					
派遣希望日時	月 日 () 時 分 ~ 時 分	※あくまでも依頼者の希望であって、必ずしも訪問できる時間ではないことを説明すること				
ボランティアの派遣場所活動先	※個人宅					
派遣場所の被災状況						
依頼内容						
必要人数	_____人 (男性 _____人 / 女性 _____人 ・ こだわらない)					
ボランティア活動に必要な備品・資材	スコップ() パケツ() 一輪車() ヘルメット() はしご() ブルーシート() その他()					
立会者	依頼者本人 ・ その他 (氏名 _____ 依頼者との関係 _____ 電話番号 _____)					
備考	Ⓟ _____ 台					

個人情報の取り扱いについて
この情報については、災害ボランティア活動ならびに災害復旧にあたっての連絡や派遣調整以外には使用しません。

倉吉市災害ボランティアセンター

ボランティア活動報告書

【様式10】

※出勤時間	AM・PM :
帰着時間	AM・PM :

派遣No.	
ニーズ受付No.	

※活動日	月 日 ()		
※リーダー氏名		※サブリーダー氏名	
※グループの人数	人 (男性 人、女性 人)		
※メンバーの登録番号			
傷病の有無	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり ()		
依頼者氏名		立会者氏名	
活動先			
活動先の様子			
活動内容			
活動結果	<input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 継続希望		
トラブルの有無	<input type="checkbox"/> あり () <input type="checkbox"/> なし		
特記事項 問題・引継事項 活動先の状況等	※ 被災者が困っていたこと、あなたが気がかったこと		
ボランティア 活動の感想			
ボランティア センターへの要望			

※ この報告書は、活動開始前に出勤時間などをリーダーが記入の上、スタッフへ提出してください。また、その他は災害ボランティアセンターに帰った後に、一緒に活動したグループの仲間と相談の上、リーダーが記入し、スタッフへ提出してください。ありがとうございました。

倉吉市災害ボランティアセンター

活動参加者名簿

年 月 日 ()

出発時間 :

活動先: _____ 町 _____ 様宅 軽トラNo. _____

リーダー氏名: _____ 運転者 _____

TEL: _____ 免許証チェック _____

カギ返却確認者 _____

①氏名
TEL

⑤氏名
TEL

②氏名
TEL

⑥氏名
TEL

③氏名
TEL

⑦氏名
TEL

④氏名
TEL

⑧氏名
TEL

※何かあれば、下記番号に連絡をお願いします

倉吉市災害ボランティアセンター ☎ 0858-22-9801

【様式6】

NO. _____

倉吉市災害ボランティア活動証明書

平成28年 月 日

_____様

倉吉市災害ボランティアセンター長
社会福祉法人倉吉市社会福祉協議会
事務局長

印

(あなた・貴団体)は、倉吉市災害ボランティアセンターにおいてボランティアとして次のとおり活動したことを証明します。

記

1. 災害名 平成28年10月21日 鳥取県中部を震源とする地震
2. 活動期間 H28年 月 日 () ~ 年 月 日 ()
3. 活動内容 災害ボランティア活動

活動物品提供票

(寄付・借用兼用)

日時	年 月 日() :				
提供者お名前	<input type="checkbox"/> :企業 <input type="checkbox"/> :団体 <input type="checkbox"/> :個人 <input type="checkbox"/> :その他 企業名・団体名 (代表者)お名前				
連絡先	〒 電話 FAX 携帯				
提供者区分	<input type="checkbox"/> :寄付 <input type="checkbox"/> :借用(<input type="checkbox"/> :無料 <input type="checkbox"/> :有料)				
提供者	品名	規格	数量	確認	管理台帳No.
	1)				
	2)				
	3)				
	4)				
	5)				
寄付品案件	<input type="checkbox"/> :条件なし <input type="checkbox"/> :有り()				
借用品条件	借用期間(月 日~ 月 日 :) 使用料等				
備考					受入担当
返却確認	返却 月 日 :				返却担当
※返却先担当者サインをいただくこと					

(注) 1借用品についてはコピーを返却期日順に重ねて管理すること。
 2返却日には、借用品と共にこの用紙を持参し確認願うこと。

平成 28 年 10 月 23 日現在

私たちは、倉吉市災害ボランティア センターからきました

謝礼は必要ありません。

ボランティア活動で気づいたことは、災害ボランティアセンターへ
お問い合わせ TEL 0858-22-9801

<ご理解いただきたいこと>

- 活動中に危険が予測された場合は、中断させていただきます。
- 活動終了時間は午後 3 時までです。活動の継続を希望される場合は、翌日以降の活動になります。その場合、改めて災害ボランティアセンターにご連絡ください。
- ボランティア自身の健康管理のため、1 時間に 1 回 10 分程度は、休憩をとらせていただきますので、ご了承ください。
- トイレを借用する場合がありますので、ご配慮をお願いします。
- 次のような場合は、活動をお断りさせていただく場合があります。
 - ・営利行為、政治的活動、宗教活動
 - ・危険を伴う活動

<その他>

- 「倉吉市災害ボランティアセンター」では、プライバシーを十分に尊重し、個人情報の取り扱いに留意して活動に取り組んでいます。

倉吉市災害ボランティアセンター（倉吉市社会福祉協議会）

住所：倉吉市災害ボランティアセンター（倉吉市上灘町 9-1）

電話：0858-22-9801

平成 28 年 11 月 3 日現在

あなたのお困りごとを

社会福祉協議会（社協）と



ボランティアがお手伝いします

お気軽にご相談ください

- 活動内容 被災された住宅の片付けや家具の運び出し、清掃、その他お困りのことがあればご相談ください。
- 受付時間 午前 8 時 30 分～午後 5 時
- 受付場所 倉吉市災害ボランティアセンター（上灘公民館内）

ボランティアのお手伝いを希望される方へ

- ①お電話、またはボランティアセンターへお越しください。
- ②ご近所やご親戚の方のお困りごとのご相談でも結構です。
- ③内容により、お受けできないことやすぐに対応できない場合もあります。
- ④ボランティアは無報酬です。ボランティアへのお礼は不要です。

※市民の方の活動参加も併せて募集しています。

1 ○お問合せ先 倉吉市災害ボランティアセンター

（倉吉市社会福祉協議会）

電話 0858-22-9802 倉吉市上灘町 9-1
（上灘公民館内）

平成 28 年 11 月

倉吉市災害ボランティアセンターが
 被災によるお困りごとの
解決をお手伝いします

「家族で片づけをしてきたけれど疲れてしまった」「正月が近づくのに片づけが間に合わない」「専門業者さんを頼むほどではないけれど自分ではむずかしい」
こんなことでもあったら、まずはご相談ください

- 活動内容 被災により生じた住宅の片付けや破損家具の運び出し
清掃その他のお手伝い、地域の訪問活動など
- 開所時間 午前 9 時～午後 4 時
※12 月から毎週火曜日は休所日とします
- 開所場所 倉吉市大正町 1067-29 まちかどステーション内

市民からのご依頼が毎日たくさんあります。スタッフやボランティア活動に参加される方もお待ちしております。

○お問合せ先

倉吉市大正町 1067-29 まちかどステーション内

倉吉市社会福祉協議会

倉吉市災害ボランティアセンター

ボランティアを頼みたい方 電話 0858-22-9802

ボランティア活動に参加したい方やその他のおたずね

電話 0858-22-9801



平成 28 年 11 月 11 日

倉吉市災害ボランティアセンターは
大正町・まちかどステーションへ



移転します(11/15～)

11月13日まで 上灘公民館でこれまでどおり開設

11月14日 移転作業のためセンター休館

11月15日 まちかどステーション（倉吉市大正町 1067-29）で移転再開

○活動内容 被災により生じた住宅の片付けや破損家具の運び出し、
清掃その他のお手伝い、地域の訪問活動など

○開設時間 午前9時～午後4時

※12月から毎週火曜日は休館日とします

○開設場所 倉吉市大正町 1067-29 まちかどステーション内

市民からのご依頼が毎日たくさんあります。スタッフやボランティア活動
に参加される方もお待ちしております。

○お問合せ先

倉吉市大正町 1067-29 まちかどステーション(合銀支店横)内

倉吉市社会福祉協議会 **倉吉市災害ボランティアセンター**

ボランティアを頼みたい方 電話 0858-22-9802

ボランティア活動に参加したい方やその他のおたずね

電話 0858-22-9801

ボランティアのみなさまへ(お知らせ)

平成 28 年 12 月 24 日

倉吉市災害ボランティアセンターが **移転** します

12月25日
まで

まちかどステーション
(倉吉市大正町)

12月26日～1月5日 移転作業及び年末年始のためお休み

1月6日
から

倉吉福祉センター

(倉吉市福吉町 1400)

- ・旧 福祉会館
- ・JA(農協)会館横
- ・バス停「福吉町」前



※活動は、原則として毎週の **金曜日・土曜日・日曜日** とさせていただきます。

ボランティア
活動日

金 土 日
午前9時～午後4時

★ 活動内容 ★

- 被災により生じた住宅の片付け
- 破損家具の運び出し
- 清掃・その他のお手伝い

【お願い】 屋根作業(ブルーシート張り(直し)等)ができる方は、
受付の際にお申し出ください。インパクトドライバーなど、
お手持ちの機材があれば持参いただくと助かります。



倉吉市社会福祉協議会 倉吉市災害ボランティアセンター
TEL:0858-22-9801 FAX:0858-22-9800

ボランティア活動に行く前に



倉吉市と倉吉市民のために、

ありがとうございます

◀白壁土蔵群

この街並みも大きな被害を受けました

○依頼元のお宅に着いたら

- ・倉吉市ボランティアセンターから来たことを伝え、お名前を伝えてください。
- ・依頼者の方に活動内容の確認をしてください。
- ・トイレの借用をお願いしてください。

見知らぬ人に対して、
不安を抱かれる場合があります

○活動中に注意してほしいこと

- ・できないことや新たに依頼されたり、返事に困ったときには、遠慮なくボランティアセンターへ相談してください（電話 0858-22-9801）
- ・危険なときや手に負えないときは、一旦保留にして、ボランティアセンターへ相談してください。
- ・廃棄するものかどうかは、依頼者に判断してもらってください。
- ・政治的、宗教的活動のお手伝いは断ってください。
- ・昼食や飲み物等、必要なものは各自でご準備ください。

○活動が終わったら

- ・依頼者との間で作業の終了の確認をしてください。
新たな依頼がある場合は、センターに電話し相談してください。
- ・ボランティアセンターに戻り、資材を返却して、活動報告をしてください。

○ケガや病気の時

- ・すみやかにリーダーとセンターに連絡してください。
- ・ひどいときは、救急車を呼びましょう。

ボラセン



(0858)

22-9801

強い地震で自宅の中の物が散乱したり壊れたりしていても、
「自分より大変な人もいるのに、自分がボランティアの手伝いを頼んでもよいのか」
「“ボランティア” や “ボランティアセンター” という言葉は知っていても、何は頼めて何は頼めないのかわからない」
という市民が高齢者を中心にたくさんいます。
そして、ひとり暮らしの人たちは「余震が怖い」「今日も疲れた」「明日は何をしよう」といったことを話せる家族がいません。
そこへ訪問することで「ちょうどよかった」「うれしかった」「久しぶりにお話ができ気持ち楽になった」と喜んでもらえることが多くあります。
こうしたことから、倉吉市災害ボランティアセンターではチラシを片手にボランティアやスタッフによる地域訪問活動に開設当初から取り組んでいます。
これまでたくさんのボランティアのみなさんによって続いてきて、これから冬に向かう時期だからこそ丁寧に続けていきたい活動ですので、今日はみなさんの手にあるバトンをよろしくお願いします。

訪問チーム…二人あるいは三人の組を作ります

持ち物…V C チラシ 住宅地図 ニーズ票様式 筆記用具

- ・「倉吉市災害ボランティアセンターから来た」ことを伝えてください。
- ・お家のことや身体のことを気遣いながら立ち話になればよい、くらいのイメージで。
- ・ボランティアだとわかると具体的に手伝ってほしいことを頼まれることもあります。

その場で簡単にできそうなことはしていただいて結構です。また、その場では難しいことや判断に迷うことは「持ち帰って相談しますね」と答えて、“ニーズ票”に書き込んでください。※ボランティアではムリなこと、すぐに対応できないこともあります

活動中に事故やケガ、トラブルに遭った時は、災害V C 0858-22-9801 へ連絡してください。

屋根ブルーシートの張り方研修会

- 日時：平成 28（2016）年 11 月
 - 23 日午後 1 時～午後 3 時、午後 7 時～午後 9 時
 - 24 日午後 3 時～午後 5 時
 - 25 日午後 1 時～午後 3 時、午後 7 時～午後 9 時

- 主催：倉吉市災害ボランティアセンター
出雲市総合ボランティアセンター運営委員会

- 講師：コミサポひろしま 代表 小玉幸浩さん

- 会場：倉吉市災害ボランティアセンター（まちかどステーション）

- プログラム：
 1. 主催者あいさつ

 2. 研修会の趣旨説明

 3. ブルーシートの張り方説明

 4. 質疑応答

あしあわせ

倉吉市社会福祉協議会のホームページやFacebook（フェイスブック）に災害ボランティアセンターに関する情報を掲載しています。

鳥取県中部地震

～みんなの力で笑顔のまちを～

倉吉市災害ボランティアセンターを開設しています

～被災された住宅の片付けや家具の運搬、
清掃などをお手伝いします～

開所時間 8時30分～17時00分

住所 鳥取県倉吉市上灘町9-1

電話 0858-22-9801（ボランティア活動希望者）
0858-22-9802（ボランティアに来てほしい方）

※上灘公民館へのお問い合わせはご遠慮ください。

ボランティアを募集しています

- 屋内外の片付けや掃除
- ボランティアの活動先への案内役（地理のわかる方）
など

※継続して関わってもらえる方、大歓迎！

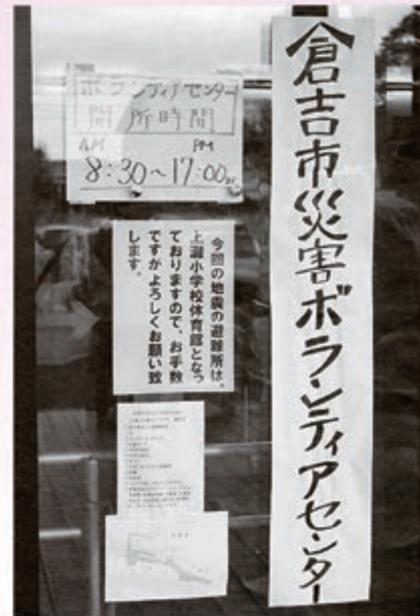
※がれき撤去や家具の片付けに、軽トラックや工具類（金槌、大きめのハンマー等）があると助かります。

平成28年10月21日（金）午後2時7分に、鳥取県中部で震度6弱（マグニチュード6.6）を観測し、倉吉市内に大きな被害をもたらしました。

倉吉市社会福祉協議会では、10月22日（土）に上灘公民館に災害ボランティアセンターを開設し、市民からの困りごとやボランティア活動者の受付・調整を行っています。

災害ボランティアセンターでは、鳥取県社会福祉協議会をはじめ、日野ボランティアネットワーク、県内外の社会福祉協議会、防災士会、鳥取大学、看護大学、鳥取県などの職員・学生らと一緒に運営を行っています。

また、市内外より、中学生から70歳を超える個人ボランティアや、災害支援の経験のある全国のNPO団体等が活動を行っています。



※鳥取県中部地震により被災されたみなさまに対し、心からお見舞い申し上げます。



市町村社協職員による聞き取り



ボランティアの受付・説明



ボランティア活動のマッチング



鳥取看護大学の教員・学生による健康相談



島根県消防学校生徒による支援



避難所での住民による豚汁の提供

被災された方の生活福祉資金貸付の相談をお受けします。(☎24-6265)

●対象者 低所得世帯・高齢者世帯・障がい者世帯（所得制限あり）

資金の種類	内容	限度額	利率	必要書類	
福祉費	住宅経費	被災により損壊した住宅の保全、補修に必要な経費（全壊・半壊は除く）	250万円	1.5% ※保証人を立てる場合は無利子	罹災証明書 住民票 印鑑証明書等
	災害経費	被災により損害を被った家財の購入・修繕・引越し等に必要な経費	150万円		
緊急小口資金	被災により緊急的かつ一時的に生計の維持が困難となった場合の経費	10万円			

※貸付後6年間は鳥取県からの利子補助があります。
※他制度との併用はできません。また、審査の結果、お貸しできないこともあります。

平成28年度鳥取県中部地震義援金を募集しています

●募集期間 平成28年10月25日から11月25日まで

団体	金融機関	口座番号	口座名義
共同募金会	山陰合同銀行湖山出張所	(普) 3607893	社会福祉法人鳥取県 共同募金会 会長 清水 昭允
	鳥取銀行湖山支店	(普) 0003891	
	ゆうちょ銀行	00950-6-332033	鳥取県 共同募金会 鳥取県 中部地震災害義援金
日本赤十字社	鳥取銀行鳥取県庁支店	(普) 305738	日本赤十字社鳥取県支部 支部長 平井 伸治
	山陰合同銀行鳥取県庁支店	(普) 3642728	

※この義援金には、税制上の優遇措置がありますので、倉吉市社会福祉協議会(☎23-5600)までお問い合わせください。

あしあわせ

- 平成28年度 倉吉市社会福祉協議会会長表彰、倉吉市共同募金委員会会長表彰 ご受賞おめでとうございます/赤い羽根共同募金実績報告 2
- 香典返し寄付金/一般寄付金/鳥取県中部地震災害支援金 3

倉吉のために、 一人ひとりの笑顔のために、 ボランティアが活動しています

倉吉市災害ボランティアセンター

倉吉市災害ボランティアセンターには、地震発生直後から県内をはじめ全国から延べ2,889名（11月21日現在）のボランティアが駆けつけています。「倉吉市のために自分にできることをしたい」という熱い思いを持ち、センタースタッフとともに活動しています。

市民の困りごとの主なものは、当初は屋根へのブルーシートの設置等でしたが、屋内の片づけや震災によるごみの処理といったものも、まだまだあります。

今後は、個別訪問やふれあい・いきいきサロン等を通じて、普段の生活に戻ることができるよう、ボランティアや地域の方々とともに応援していきたいと思えます。



ボランティアから多くの応援メッセージが...



説明をきいて さあ、出発



倉吉市社会福祉協議会のホームページやFacebook（フェイスブック）に災害ボランティアセンターに関する情報を掲載しています。

ボランティアを 募集しています

- 屋内外の片付けや掃除
 - ボランティアの活動先への案内役（地理のわかる方）など
- ※地元の方、継続して関わってもらえる方、大歓迎！

倉吉市 災害ボランティアセンター

開所時間/ 9時00分～16時00分
※12月から毎週火曜日は休所日
場 所/ まちかどステーション
(鳥取県倉吉市大正町1067-29)
電 話/ 0858-22-9801
(ボランティア活動に参加したい方や、その他のおたずね)
0858-22-9802 (ボランティアに来て欲しい方)



しあわせ

- 災害ボランティアセンターが倉吉市社会福祉協議会に移転します…………… 2
- 赤い羽根共同募金実績報告／香典返し寄付金／一般寄付金／鳥取県中部地震災害支援金…………… 3

新しい年が笑顔あふれるしあわせな年でありますように

倉吉市災害ボランティアセンターは、平成29年1月6日より倉吉市社会福祉協議会へ移転します
(詳細は2ページ)



倉吉市災害ボランティアセンターは今年もみなさんと共に頑張ります

謹賀新年



社会福祉法人 倉吉市社会福祉協議会
会長 小谷 喜寛

謹んで新年のご挨拶を申し上げますとともに、昨年の災禍を改めてお見舞い申し上げます。昨年は自然の猛威が日本中を震撼させた一年でありました。熊本地震や全国各地で相次いだ台風を始めとする記録的な豪雨による大災害、そして、十月二十一日の昼下がりに、鳥取県中部をマグニチュード六・六の大地震が襲いました。

震度六弱という激震に見舞われながら、死者が出なかったのが何よりでしたが、家屋の倒壊や損壊など多くの方々が被災されました。大災害のない安全な地域だと思われていた中での震度六弱、大きな揺れは身近に起きることを、また、災害はいつ何時何処で起こるか分からぬ「天災は忘れたころにやってくる」ことを実感させられました。地域を問わず、常日頃から防災・減災への備えが必要であることの教訓としなければなりません。

この震災をとおして、市民の中に改めて芽生えたであろう人の絆や地域の支え合い、助け合いを大切にできる気運の高まりを、今後の地域づくりにつなげていかなければならないと思っております。

本会は、震災発生の翌日に災害ボランティアセンターを立ち上げ、県内外各地からの多くのボランティアの支援を得て、屋根のブルーシート張り、瓦礫撤去、家屋の片付け等の被災者支援を行いました。また、災害ボランティアセンターの運営支援のために県内外の社会福祉協議会など様々な団体・組織からも多くの人的支援をいただきました。お互い様ではありますが、多くの支援に感謝をしなければなりません。

復興はこれからです。一日も早く元通りの日常生活を取り戻せるよう、皆で頑張りましょう。本会も「市民の誰もが安心して共に暮らすことのできる福祉のまち」実現のため、引き続き被災者支援に取り組んでまいります。

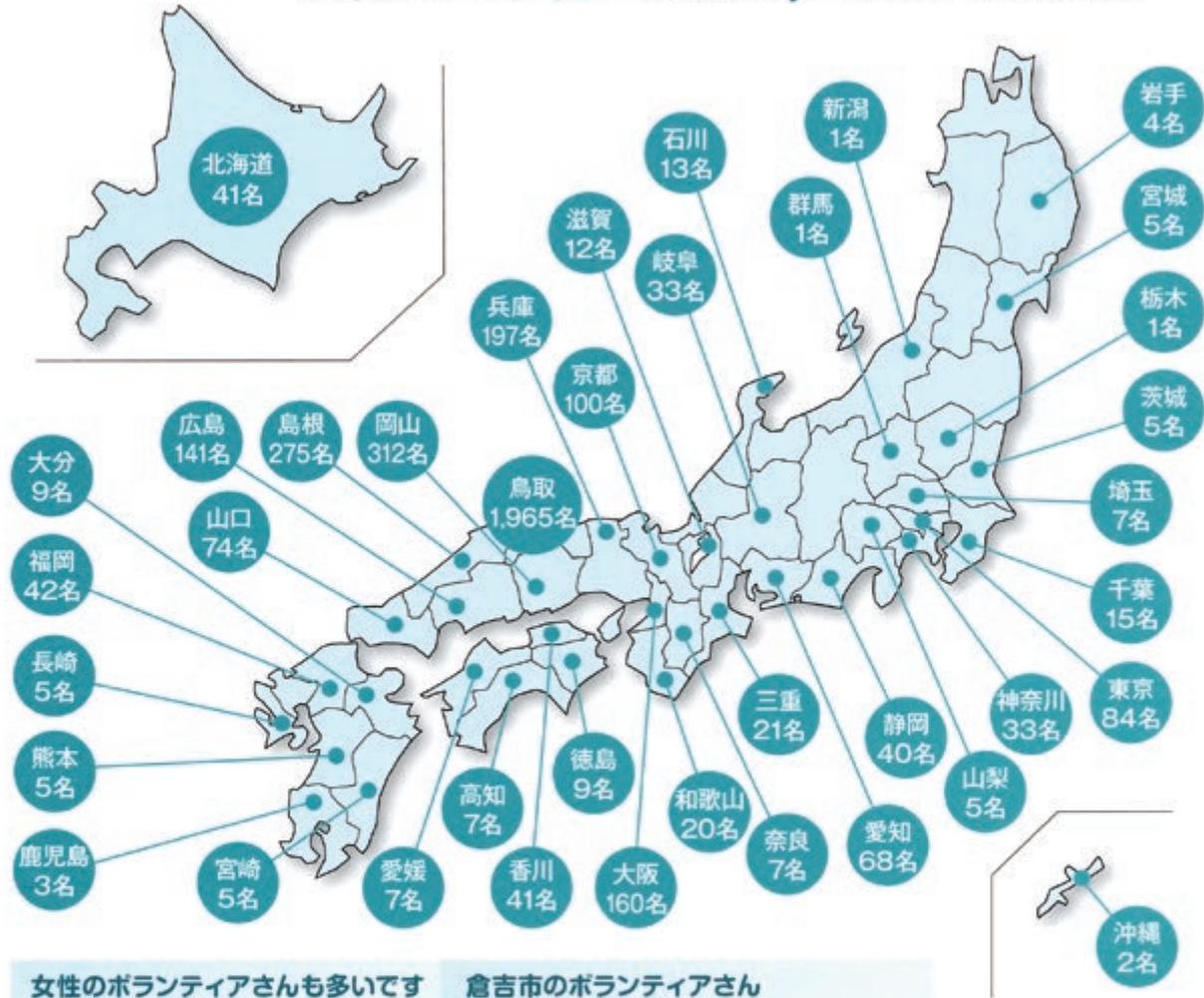
本年も本会の運営や諸事業の推進に皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたしますとともに、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。年頭にあたり、皆様のご多幸とご健勝をお祈りし、新年のご挨拶いたします。

倉吉市災害ボランティアセンターは、多くの方々に支えられています

平成28年10月22日から設置していました倉吉市災害ボランティアセンターは、生活復興・再建に向けて、平成29年1月6日（金）より大正町のまちかどステーションから倉吉市社会福祉協議会へ移転します。

ボランティアをはじめ多くのスタッフの方々に支えられ、センターを運営することができ感謝しています。引き続き、市民の皆様が一日も早く普段の生活に戻ることができるよう応援していきます。

ボランティア延べ人数 3,775人 (H28.12.18現在)



女性のボランティアさんも多いです (福岡県在住 宇佐 るみ子さん)



災害ボランティアは男性のイメージがありますが、女性でもできることはたくさんありますよ。

倉吉市のボランティアさん (山田 武津男さん)



倉吉のために、少しでも役に立てればという思いで活動しています。一人ひとりが、一日も早く普段どおりの生活に戻ることができるよう願っています。



倉吉市災害ボランティアセンター

開所日/毎週金・土・日曜日

開所時間/9時00分～16時00分

場所/倉吉市社会福祉協議会内(鳥取県倉吉市福吉町1400)

電話/0858-22-9801(ボランティア活動に参加したい方や、その他のおたすね)

0858-22-9802(ボランティアに来て欲しい方)

※1月6日までのお問い合わせ 倉吉市社会福祉協議会地域福祉課(0858-23-5600)

倉吉市社会福祉協議会のホームページやフェイスブックに情報を掲載しています。
ボランティアを募集しています(屋内外の片づけや掃除等) 倉吉市にお住まいの方、継続して関わってもらえる方、大歓迎!

災害ボランティアセンターのスタッフと心を一つに… 倉吉のために活動するボランティアさんをご紹介します



地元の館長や民生委員と一緒に訪問活動の様子

一般社団法人 山陰リンクの会の皆さん



「自分たちも役に立ちたい」と、小学生が
つきたてのお餅を差し入れに来てくれました。

倉吉市災害ボランティアセンターは大正町のまちかどステーションから倉吉市社会福祉協議会へ場所を移し、平成29年1月6日から毎週金・土・日曜日と開所しています。

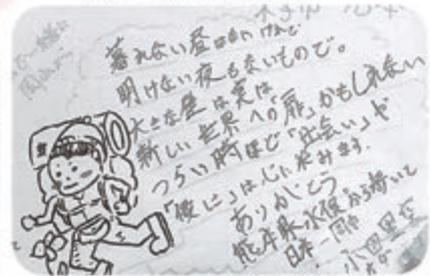
平成29年1月22日現在で延べ4,183名のボランティアの皆さんが活動しています。センタースタッフとともに、市民に寄り添いながら活動するボランティアの皆さんの活動を紹介します。



地震の記事をスクラップする様子



初めて出会ったボランティアさんの、
友情や絆が生まれています。



熊本出身の小田さん(上写真の中央)から
熱いメッセージをいただきました。

倉吉市災害ボランティアセンター

開所日/毎週金・土・日曜日

開所時間/9時00分～16時00分

場所/倉吉市社会福祉協議会内(鳥取県倉吉市福吉町1400)

電話/0858-22-9801(ボランティア活動に参加したい方や、その他のおたすね)
0858-22-9802(ボランティアに来て欲しい方)

震災による困りごとのお手伝いをします!

- 被災により生じた住宅の片付け
 - 破損家具の運び出し
 - 清掃・その他のお手伝い
- …その他、お気軽にご相談ください。

歳末たすけあい募金

(単位:円)

募金区分	目標額	実績額
戸別封筒募金	3,000,000	2,785,511
篤志募金	200,000	180,428
合計	3,200,000	2,965,939

実績率 92.7%



倉吉市仏教会
托鉢を実施し歳末たすけあい募金に

集められた
募金は…



一人暮らし高齢者等への
非常持出袋配布事業へ



年末年始の
ふれあい給食サービス事業へ



年末年始の地域でのふれあい交流事業へ
(西郷地区社協 餅つき交流会)

赤い羽根共同募金

(単位:円)

募金区分	目標額	実績額
戸別募金	6,100,000	5,871,546
街頭募金	1,020,000	975,513
法人募金	1,430,000	1,407,711
学校募金	180,000	109,505
職域募金	360,000	292,596
大口募金	460,000	446,700
店頭募金	150,000	159,997
合計	9,700,000	9,263,568

実績率 95.5%

赤い羽根共同募金は、
次年度の倉吉市内の福祉活動に
活用させていただきます。



倉吉市共同募金委員会からのお知らせ
歳末たすけあい募金・赤い羽根共同募金に
ご協力ありがとうございました

(H29年1月18日現在)

あしあわせ

- 倉吉市災害ボランティアセンターからのお知らせ 2
- 全国社会福祉協議会・中央共同募金会会長表彰の受賞者報告／香典返し寄付金／鳥取県中部地震災害支援金／エコキャップ寄付 3

『震災から家族と地域を考える』 シンポジウムを開催します

平成28年10月21日に鳥取県中部で震度6弱の地震が発生し、大きな不安の中で、地域や周りの人々とのつながりや支え合いの大切さを見直すきっかけとなりました。

今回、「生きること」の原点である「家族」を念頭におきながら、震災発生後にどう行動したのかをそれぞれの立場で振り返り、その中で見えてきた課題等を共有し、これからの倉吉のまちづくりについて語り合います。

倉吉市民で
地域活動・ボラン
ティア活動に関心の
ある方はどなたでも
参加できます

とき **H29.3.12(日)**
11:00～15:00(受付10:30～)

ところ 地域交流センター
アゼリアホール(倉吉市山根43)

映画鑑賞

山口放送開局60周年記念作品
ドキュメンタリー映画

「ふたりの桃源郷」

シンポジウム

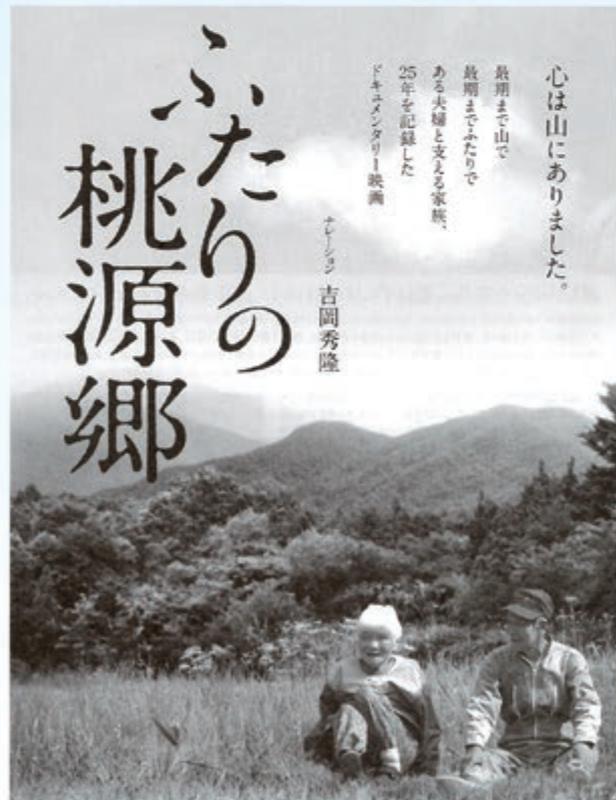
「震災への対応と、
これからのまちづくり」

発表者

- ・自治公民館
- ・民生児童委員
- ・青年会議所
- ・ボランティア活動者

申込締切
3月6日(月)

託児あり



【問合せ・申込先】倉吉市社会福祉協議会 地域福祉課
電話：23-5600 FAX：22-5249

倉吉市災害ボランティアセンターでは訪問活動をしています

災害ボランティアセンターでは、鳥取大学の学生や、社会福祉士会・介護福祉士会等の専門職と一緒に、地震の被害が多かった5地区（上灘・成徳・明倫・社・小鴨）で、福祉協力員が見守りをしている高齢者のご自宅へ訪問活動を行っています。

地震前後の心と身体、生活の変化や困りごとをお聞きし、笑顔と元気につながるようなお手伝いや、今後の地域づくりにつなげていきたいと思えます。



「寒いので体調には
気を付けてくださいね」

鳥取大学で看護を学んでいる学生が、高齢者の方の血圧を測ったり、お話を伺ったりしました。帰る際に高齢者の方の手を握ると涙ぐまれる場面もありました。



訪問の時には、全国から届いた心のこもった手作りの品物をお土産に

平成19年3月25日、石川県輪島市に住む私たちは、震度6強の能登半島地震によって、被災しました。

災害で被災された方のことを思うと人ごとではありません。私たちにできることはないかと、みんなで話し合っ
て考えついたのが、この「和みバッグ」です。

タンスの中にある着物を出し合い、仕立て直してバッグにしました。この和みバッグを使う時、心が少しでも和んでいただけるよう心をこめて作りました。

私たちは元気になりました。皆様もきっと元気になれることを信じております。共に歩んでいきましょう。

(石川県輪島市災害ボランティアの会より)



私が住む広島市安佐北区も、2014年8月に豪雨災害に見舞われました。未だに、復旧作業が続いております。私もその一端を担いつつ、不安が去らない中で暮らしております。けれど、広島にありましても、「ともにある」という気持ちは変わりません。

(広島市安佐北区有志の方より)

ご存知
ですか？

倉吉市災害ボランティアセンター運営に、皆さまからの共同募金の一部が役立っています。

共同募金会では、災害時の被災地のボランティア活動を支援するため、一般募金と歳末たすけあい募金の3%を災害等準備金として積み立てています。

被災地の準備金が不足した場合は、他の都道府県共同募金会が保有する準備金を拠出することができ、共同募金への寄付は、災害時におけるたすけあいの取り組みにもつながっています。

皆様からの寄付金の一部が被災された方々のために役立っています。



災害ボランティアセンター運営費として…

- ・ボランティア活動資材
(土のう袋、ブルーシート、軽トラックリース料等)
- ・センター電話代 等



おしあわせ

- H28年度社協会費のお礼／社協会員入会のお願い 2
- 高城小学校5年生「夢へと歩む道」／香典返し寄付金／鳥取県中部地震災害支援金／エコキャップ寄付 3

倉吉市
災害ボランティア
センターより

全国の支援に「ありがとう」 倉吉復興に向けて頑張ろう



「一人も孤立させない
支え合えるまちに」
(笠見さん)

「感謝と奉仕の心
を持った人が輪になれば
素敵なまちに」
(浦川さん)

「笑顔が
あふれるまちに」
(井上さん)

「これからも笑顔と
元気を届けたい」
(堀内さん)

それぞれの立場から、鳥取県中部地震発生時の動きや、これからの倉吉のまちづくりについて話をいただきました。

(左から、伊木自治公民館長 笠見篤義さん、上灘地区民生児童委員協議会長 井上 靖さん、倉吉青年会議所直前理事長 浦川尊弘さん、鳥取大学農学部 堀内夏樹さん)



参加者で意見交換



災害ボランティアセンターで活動した
倉吉東高野球部のメンバー
「これからも自分たちにできることをしたい」

平成29年3月12日(日)、地域交流センターアゼリアホールで「震災から家族と地域を考える」シンポジウムを開催し、128名が参加しました。

普段からの地域における支え合いの大切さを改めて感じ、ボランティアの皆さんへの感謝の気持ちを忘れず、これからの倉吉復興に向けて「頑張ろう」という思いが一つになった会となりました。

倉吉市災害ボランティアセンター閉所のお知らせ

平成28年10月22日から開設していましたが倉吉市災害ボランティアセンターは平成29年3月31日をもって閉所いたしました。

今後は、通常のボランティアセンターとして市民のお困りごと等のご相談をお受けし、地域のご協力もいただきながら、生活を応援していきます。

開設期間中、皆さまには大変お世話になり、ありがとうございました。

今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。

問合せ先 地域福祉課(☎0858-23-5600)



上灘公民館

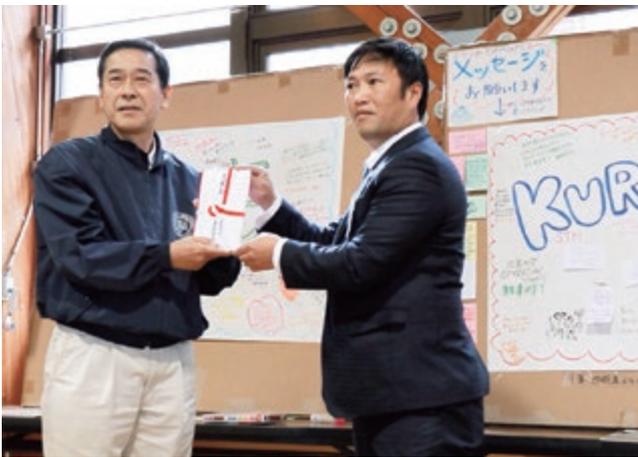
初期(10/22~11/13)





まちかど ステーション

中期(11/15~12/25)





倉吉福祉センター

後期(1/6~3/31)





ボランティア・スタッフの多くの笑顔に支えられて

平成28年10月21日震災当日の深夜、市から翌日の災害ボランティアセンター設置の要請を受け、場所や活動内容等、会長ほか社協内で協議をし、市の災害対策本部に出かけて協議したことを思い出します。その年は、倉吉市社協として初めての災害ボランティアセンター運営模擬訓練を数日後に予定していました。春先から震度1、2と徐々に揺れが大きくなる中で、震災を扱ったテレビの特別番組を見て、倉吉市での地震の発生を危惧していた矢先のことでした。

運営は、センター内のレイアウトなど県社協等の被災地での豊富な経験をもとにスタートし、その後は、市民の相談の状況やボランティアの活動報告から見直しを繰り返していきました。開所後、日野ボランティア・ネットワークのスーパーバイザーから、センターとしての目標を決めましょうと提案を受け、「市民の生活を取り戻すために、多くの人の力を借り、力を合わせてこの震災を乗り切っていくこと」を即座に決め、倉吉市社協のモットーである笑顔と、そしてボランティアとともに運営していくことを基本に取り組みました。市民からの依頼と合わせて、相談から感じたニーズの変化を戸別訪問等で確認し、センター独自の活動を取り入れていきました。当初、屋根のブルーシート張りの依頼が集中し、市民にとって最も大きな不安を取り除くことが大切と考え、できる範囲で取り組むこととしました。同年4月に発生した熊本地震で活動していた広島グループや地元の塗装業のグループがいち早く駆け付けて協力を申し出いただいていたことから、決断できたことでした。

センターには、北は北海道から南は沖縄まで、多くのボランティアにおいでいただき、また、運営には、県内外の社協、地元企業や大学、行政、団体等にスタッフとして応援いただいたほか、県内をはじめ、全国から、たくさんの物資や炊き出しなど有形無形の温かい支援や応援をいただきました。それは、市民にとっても、震災による肉体的・経済的な負担を軽減し、心身の疲れを癒し、何よりも心を元気にする大きな力となりました。

災害ボランティアセンターの運営によって、人の力のすばらしさ、繋がりや協力の大切さを改めて感じるとともに、震災は、組織や地域の強みや課題を顕在化し、私ども社協にとって示唆に富む貴重な経験となりました。

現在、この経験を活かして、子どものときから人や家族、地域に目を向け世代を超えて繋がりを作る取り組みや、住民同士で地域に目を向ける取り組みを進めています。そして、震災から時間が経過することで出てくる市民からの相談を受け、行政や関係者とともに支援に取り組んでいるところです。

結びに、センターの運営にあたり、県内外の社協、日野ボランティア・ネットワーク、コミサポひろしまをはじめ、多くの方にご支援いただきましたことに心からお礼を申し上げます。

なお、末筆になりますが、平成30年4月にお亡くなりになりました民生児童委員の中瀬元一氏におかれましては、センター開所から連日にわたり運営を支えていただきました。ここに、心から感謝を申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

社会福祉法人 倉吉市社会福祉協議会役職員一同